

三重大学 国際交流 年報 2020

Annual Report 2020

**International Activities of
Mie University**

第7号(通巻第21号)

Vol. 7

Contents

- I. 三重大学における国際化および国際交流
- II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動
- III. 国際交流センターの活動
- IV. 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援
- V. 資料



大学の基本的な目標

三重の力を世界へ

地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。

～人と自然の調和・共生の中で～

基本理念(国際化)

三重大学は、国際交流・国際協力の拡大と活性化を図るとともに
国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成し、大学の国際化を目指す。



目次

Contents

巻頭言 副学長（国際交流担当）・国際交流センター長

2020年度三重大学国際交流年報の発刊にあたり 01

I. 三重大学における国際化および国際交流

1. 三重大学の国際化に関する目標および達成のための措置	03
(1) 海外大学との交流の実質化	03
(2) 大学と地域のグローバル化推進	03
(3) グローバル化に向けての地域社会と大学との協働	03
2. 協定大学との主な国際交流活動	04
(1) Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウム	04
(2) コンセクティブディグリー・プログラム（天津師範大学・中国）	04
(3) ダブルディグリープログラム（スリウィジャヤ大学, パジャジャラン大学・インドネシア）	04
3. 国際交流事業の経費助成	05
(1) 三重大学国際交流事業経費助成制度	05
(2) 外国人教員短期招へいプログラムによる受入れ	05
(3) 外国人研究者受入れ	06

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

1. 教養教育院	07
(1) シェフィールド大学ELTC オンライン英語研修とオンライン講義	07
2. 人文学部・人文社会科学研究科	09
(1) 国際忍者プロジェクト	09
(2) 国際海女学プロジェクト	10
(3) 日本とタイを結んだ文化研修プログラム	10
3. 教育学部・教育学研究科	11
(1) 「日本語・日本事情」における国際交流	11
(2) オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施	12
(3) ミシガン大学との国際交流	13
(4) メキシコのアメカメカ教育大学との国際交流	13
(5) 多文化教員養成を目的とした海外体験学習プログラム「海外教育実地研究B」の実施	14
4. 医学部・医学系研究科	15
(1) 外国人留学生のオンライン学位審査	15
(2) 外国人留学生の外科医更新試験の別室受験	15
(3) 海外の研究者との共同研究	15
(4) 国立大学病院長会議委員会国際化協議会担当者会議の参加	16
(5) 「国際保健と地域医療」の連続講義開催（堀 浩樹先生 医学医療教育学）	16
(6) 国際医療支援センターホームページ改修	16
(7) 病院内掲示物の多言語化	17
(8) ポルトガル語とスペイン語による入院案内動画の作成	17
(9) 留学生の臨床研修許可申請更新	17
(10) 海外臨床実習医学部生の交換	17
(11) 2020年度三重大学看護学科の国際交流（派遣）	17

5. 工学部・工学研究科	18
(1) HUST ツイニング・プログラム集中講義および活動内容	18
(2) 7研究領域「オンライン国際シンポジウム」の開催	19
(3) オンライン「海外短期インターンシップ」の開催	20
(4) オンライン「さくらサイエンスプラン」の開催	20
6. 生物資源学部・生物資源学研究科	21
(1) 各種JICA教育プログラムの実施	21
(2) マレーシア・トレンガヌ大学とのオンラインセミナー	21
(3) インドネシア留学生会・在インドネシア三重大学同窓会とのオンラインセミナー	22
(4) 2020年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」	22
(5) オンライン交流事業：オーストラリアメルボルン市RMIT大学	22
(6) オンライン交流事業： JAPAN-MALAYSIA-INDONESIA (JMI) ONLINE CULTURAL EXCHANGE PROGRAM 2021	22
7. 地域イノベーション学研究科	23
第12回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ (IWRIS2020)	23

III. 国際交流センターの活動

1. 留学生受け入れプログラム	24
(1) 国際交流センター所属の短期留学生コース	24
(2) 日本語・日本文化研修留学生（日研生）コース	24
2. 国際教育活動の概略	24
A. 日本語・日本文化教育プログラム	26
(1) 日本語研修（初級）集中コース	26
(2) 一般日本語教育科目	26
(3) 選択科目：日本語教育・日本文化教育	27
(4) 市民開放授業	27
(5) サバイバル日本語講座	27
B. 国際キャリアアッププログラム	27
(1) 英語による授業（教養教育開放授業）	27
(2) 2020年度 海外短期研修プログラム（国際交流センター実施プログラム）	28
3. 三重大学国際交流活動	29
(1) Lunch Time New York（3回シリーズ）	29
(2) 未来を創るのは、私たちだ。～Shaping our future together～	30
(3) 国際交流DAYS 協定校タスマニア大学と三重大生とのオンライン交流会	30
(4) 国際交流DAYS 韓国映画と音楽：映画「パラサイト」からBTSの歌詞まで	31

IV. 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

1. 留学生支援	32
(1) 在留資格認定証明書代理申請	32
(2) 留学生ガイダンスの実施	32
(3) 私費外国人留学生優遇制度	32
(4) 私費外国人特待留学制度	32
(5) 奨学金に関する支援	32

(6) 留学生への就職支援	33
(7) 三重地域留学生交流推進会議の開催	33
(8) 日本人レジデントアシスタント (RA)	33
(9) 留学生会	34
(10) チューター制度	34
(11) 留学生住宅総合補償 (機関保証制度)	34
2. 海外留学支援	34
(1) 交換留学生の授業料免除制度	34
(2) 交換留学・トビタテ！留学JAPANに関する説明会	34
(3) 官民協働留学支援制度「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」第12期・13期採択結果	34
(4) 奨学金に関する支援	35
3. 地域の国際化支援	36
(1) 留学生の地域派遣	36
(2) 津市役所向け英語研修	36
(3) グローバル環境セミナー	36
4. 地域人材教育開発機構による国際交流活動	37
(1) 外国人留学生対象・三重県内インターンシップ	37
(2) eラーニングツール・英語プレゼンテーション動画	37
(3) 桑田真似 Web TALK「海外体験記×TOEIC対策勉強法」	37
(4) 林一章オンライン講演会「A Ball is Rolling 何処へでも行ける」	38
(5) 島サミット参加国出身者と地域市民の交流会「島サミット ZOOM TALK」	38
(6) 外国人留学生対象・乗馬体験	38
(7) 外国人留学生対象・萬古焼陶芸体験	39

V. 資料

1. 海外大学等との協定締結機関地図	40
2. 学術交流協定大学一覧	42
3. 2020年度 国籍別・学部別外国人留学生数	45
4. 三重大学生の海外派遣	46
(1) 交換留学による派遣	46
(2) トビタテ！留学JAPANによる派遣	46
(3) 海外短期派遣プログラム	47
5. 国際的な学術交流活動・教育活動に関する教職員の研究・教育業績	48
6. 歴代国際交流センター長 一覧	52



2020 年度三重大学国際交流年報の発刊にあたり

2020年度国際交流年報の発刊にあたり、国際交流担当特命副学長としてご挨拶を申し上げます。昨年度一杯で吉松隆夫前副学長が退任され、本年度より私、金子が国際交流担当の特命副学長に就任いたしました。地域創生大学としての三重大学の役割が、国際面においても十二分に発揮できるように知恵を出し、汗を流し、皆様と共に取り組んでゆきたいと思っていますのでご協力とご支援を宜しくお願いいたします。



金子 聡

国際交流担当特命副学長
国際交流センター長

2021年度が国立大学の第三期中期目標中期計画期間の最終年になります。2022年度から国立大学の第四期期間が始まります。2020年は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）で、世の中が大変なことになった一年でした。今なお世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっており、ここ1、2年は、海外の留学生の受け入れ、三重大学の学生の派遣では、かなりの制約が余儀なくされると思います。世界のどこかで発生した疫病が瞬く間に人々の移動とともに世界中に拡散し、またその影響が様々な物品のサプライチェーンにも大きな影響を与え、各種製造業も部品調達の停滞等で予想もしなかったような打撃を受けております。まさにグローバル化の負の一面を目の当たりにする思いの日々ですが、グローバル化は人類の歴史の必然であり、今後もそのような世界でわれわれ、特に若い人々は生きてゆかなければなりません。

現在、変異種が出てくるなど、今後のコロナ禍の状況は全く見通せていませんが、ワクチンの接種が進んできており、アフターコロナのことが徐々に考えられるようになってくると思います。教員の皆様には、これまでの枠組みや慣習を超える新しいグローバルな企画を積極的に提案して頂きたいと思います。オンラインなどのデジタル技術を活用した新しい形態の学修の有用性が顕在化してくると共に、新規な潮流の一つになると予想されます。

三重大学の関係者以外の方で、何らかの形で本年報を手にする機会を得て、今回初めて目を通された方もあろうかと思えます。三重大学の国際交流の取り組みやその内容、成果について、ご意見やご要望、ご質問あるいはご批判、なんでも結構です。何かございましたら三重大学国際交流チームの編集部のほうに是非ご連絡いただけましたらと思います。より実り多い三重大学の国際交流活動となるように皆様のご意見を活かしてゆきたいと思えます。最後になりましたが、寄稿していただきました皆さん、本年報の編集担当者に感謝申し上げます。



三重大学における国際化および国際交流

1. 三重大学の国際化に関する目標および達成のための措置

(第三期中期目標・中期計画 (2016年度～2021年度))

(1) 海外大学との交流の実質化

(目標)

世界で活躍できるグローバル人材を育成し、国際教育・国際共同研究を充実させるために、地域社会や世界各国の大学との交流活動を活発化させ、海外の大学等との学生と研究者の相互交流を増加させる。

(措置)

- ① 世界で活躍できるグローバル人材を育成するために、在学中に海外留学や国際会議などで海外へ派遣するための海外渡航支援制度や、ダブルディグリープログラムをはじめとしたアジアを中心とする海外からの留学生受入れプログラムを見直し、海外渡航学生数については入学定員の20%とし、受入留学生数については第2期の平均に比べ10%増加させる。
- ② 国際教育・国際共同研究を充実させるため、英語による論文作成や研究発表のための教育プログラムを実施し、国際シンポジウム・セミナーなどを継続して開催することにより、在学中に英語による論文作成や研究発表などを経験した学生数を入学定員の30%まで増加させる。
- ③ 国際的に評価されるすぐれた研究成果を創出するため、また、学内や地域で国際講演会、国際シンポジウムを開催し、地域のグローバル化を推進するため、海外からの研究者招へい制度を構築し海外からの研究者の受入人数を第2期の平均に比べ5%増加させる。

(2) 大学と地域のグローバル化推進

(目標)

国際交流活動により、多様な考え方を理解できる人材を育成し、国際的な連携研究を促進させ、新規研究課題を発見・解決するために、海外の大学との戦略的なパートナーシップを構築する。

(措置)

地域社会からの要望の強い国・地域にある海外の大学との戦略的なパートナーシップを構築するため、国際戦略本部会議を中心に、国際的な教育・研究活動、国際交流事業、附属病院での国際的医療活動などに対して明確な意思を持った方針・戦略を策定する。

(3) グローバル化に向けての地域社会と大学との協働

(目標)

地域の国際化を支援するため、シンクタンク機能とグローバル人材供給機能を持つ大学への転換を図る。

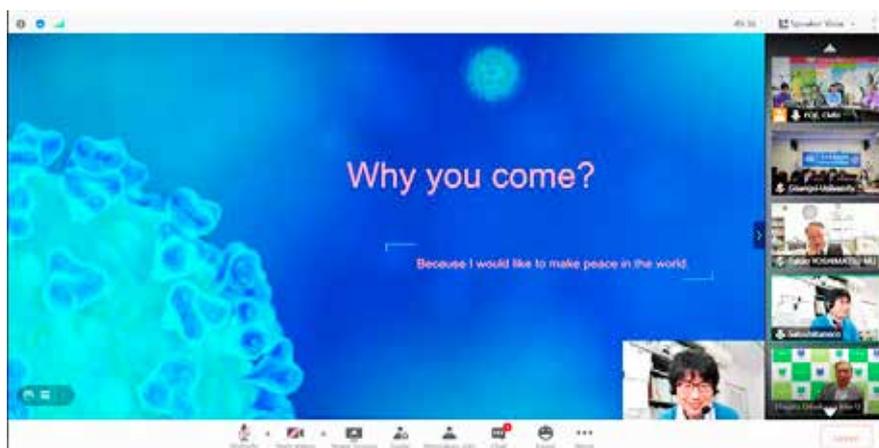
(措置)

地域の国際化を支援するため、三重県下の自治体、企業、地域社会などとの協力を強化し、産業界に必要とする人材や情報などについて、ホームページやデータベース機能などによりデータの共有化を推進するとともに、地域社会と大学の共通した課題に必要な人材育成などの協働を効果的に行える制度を構築する。

2. 協定大学との主な国際交流活動

(1) Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウム

Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウムは、三重大学（日本）、チェンマイ大学（タイ）、江蘇大学（中国）、IPB大学（インドネシア）、廣西大学（中国）の5大学が交代でホスト校をつとめ毎年開催される研究論文発表を中心とした国際交流プログラムである。2020年度は、廣西大学にて第27回大会が開催される予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により2021年度に延期となり、その代替えとして、オンラインイベント（チェンマイ大学主催）が2020年10月に開催され、新型コロナウイルス感染症をテーマに英語での研究発表会が行われた。



2020年度Tri-Uオンラインイベント

(2) コンセクティブディグリー・プログラム（天津師範大学・中国）

三重大学と天津師範大学は、「三重大学と天津師範大学との学術協力・交流に関する一般協定」（2014年11月18日締結）に基づき、共同でコンセクティブディグリー・プログラムを実施している。コンセクティブディグリー・プログラムとは、天津師範大学国際教育交流学院に在籍し、三重大学との間における、日本語コース共同教育プログラムに参加している天津師範大学の学生が、三重大学大学院に進学を希望する際に、専門分野や指導教員等のマッチング及び各種情報提供の機会を設ける等、三重大学大学院に進学するための支援を行うプログラムである。2020年春入学の同プログラム第二期生19名については、新型コロナウイルス感染症の影響により来日が実現しなかったが、オンラインで国際交流センターや教育学部などが提供する講義を受講した。

(3) ダブルディグリープログラム（スリウィジャヤ大学、パジャジャラン大学・インドネシア）

ダブルディグリープログラムとは、博士前期課程1年次はインドネシアにおいて、2年次は日本において講義受講と研究を実施し、それぞれの研究科が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すると三重大学とインドネシアの大学からの2つの修士の学位が授与されるものである。2008年に生物資源学研究科とスリビジャヤ大学がダブルディグリープログラムに関する協定を結び、その後、2012年にパジャジャラン大学とも協定が結ばれた。2020年度はスリビジャヤ大学ダブルディグリープログラムに学生1名が合格し、2021年4月より在学中である。

3. 国際交流事業の経費助成

(1) 三重大学国際交流事業経費助成制度

国際交流推進経費より、国際交流の取り組みに対し1部局あたり50万円、計15件の助成を行った。助成対象案件は以下のとおり。

2020年度 三重大学国際交流事業経費助成申請一覧

	部局名	申請代表者	事業名（申請時の名称）	対象国・地域	時期
1	教養教育院	サコラヴスキー ジェシー	英語特別プログラム シェフィールド大学ELTCオンライン研修	連合王国	2/22～2/26 3/1～3/3
2	人文学部	ラッタナセリー ウォン・センティアン	日本とタイを結んだ文化研修プログラム	タイ	10/27～30 2/27
3	教育学部	後藤太郎	オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施	ニュージーランド	11/25, 12/2, 12/16, 12/23
	教育学部	荒尾 浩子	メキシコのアメカメカ教育大学との国際交流	メキシコ	12/18, 12/21
	教育学部	中川 右也	ミシガン大学との国際交流	米国	1/20
	教育学部	服部 明子	「日本語・日本事情」における国際交流	中国	12/15, 1/19
	教育学部	服部 明子	多文化教員養成を目的とした海外体験学習プログラム「海外教育実地研究B」の実施	ベトナム タイ	12/14, 1/18, 2/5
4	医学系研究科	櫻井 洋至	海外協定大学との学生交換事業	ザンビア, メキシコ, タイ, フィリピン	令和2年7月～ 令和3年2月
	医学系研究科	成島 三長	医学系研究科シラバス英語化による国際化推進事業		令和3年3月
5	工学研究科	池浦 良淳	ベトナム・ハノイ工科大学と三重大学工学研究科とのツィニング・プログラムの実施（継続令和2年度）	ベトナム	令和2年 12月頃
	工学研究科	池浦 良淳	遠隔授業・研修等を通じた国際化学教育の推進	インドネシア, アメリカ, カザフスタン, スリランカ, ベトナム	令和2年11月～ 令和3年1月
	工学研究科	池浦 良淳	7研究領域国際シンポジウムの開催と国際化教育プログラムの推進	ドイツ, マレーシア, バングラデシュ, アメリカ, インドネシア	令和2年 9月～12月
6	生物資源学研究科	中島 千晴	海外協定校における短期実習の多様化	マレーシア, フィリピン	12/2, 12/7
	生物資源学研究科	中島 千晴	海外同窓会のオンラインシンポジウムを通じた大学院生物資源学研究科への誘導	インドネシア	12/19, 12/20
7	地域イノベーション 学研究科	三宅 秀人	第12回 地域イノベーション学に関する国際ワークショップの開催	台湾, 韓国, 中国, カンボジア, タイ, フィリピン	10/15

(2) 外国人教員短期招へいプログラムによる受入れ

三重大学の教育環境の国際化を図るとともに、教育活動の一層の進展に寄与するため、これまで交流の実績を有する海外の教育・研究機関および将来的に協定締結を視野に入れている海外の教育・研究機関からの外国人教員の短期招へいを推進している。

短期招へい外国人教員の職務は、①受け入れ学部等における学生への教育及び学生への研究指導、②本学の国際化教育と国際化推進活動への助言及び支援、③部局専門領域での教育参加のほか、教養教育及び他部局での教育機会創出の奨励である。

2020年度の外国人教員短期招へいプログラムは次のとおり。

I. 三重大学における国際化および国際交流

2020年度外国人短期招へいプログラム一覧

	学部・研究科	受入れ教員	研究者氏名	所属大学	所属先の身分	受入期間
1	人文学部	塚本 明	劉亨淑	東義大学校 (大韓民国)	教授	2020/11/29~2021/3/3
2	国際交流センター	松岡知津子 正路 真一	Gayle, Alberto Alexander	元 ウメオ大学 (スウェーデン)	元 招聘講師	2020/11/24~2020/12/21
2020年10月30日退職						

新型コロナウイルス感染症の影響により、以下の申請については中止となった。

	学部・研究科	受入れ教員	研究者氏名	所属大学	所属先の身分	受入期間
1	教養教育院	サコラヴスキー ジェシー	ジョンストン・ヘレン	シェフィールド大学 (英国)	アカデミック・ ディレクター	2020/8/21~2020/8/31
2	医学系研究科	ガバザ エステバン	Isaac Cann	イリノイ州大学 (米国)	教授	2020/11月頃~2020/12月頃
3	医学系研究科	成田 有吾 竹内佐智恵	Riyanto	インドラマユ大学 (インドネシア)	第3副校長	2020/11月頃~2020/12月頃
4	教育学部	馬原 潤二	何鵬学	北京理工大学 (中国)	副教授	2020/7/1~2020/8/31
5	教育学部	後藤太郎	John Hope	オークランド大学 (ニュージーランド)	名誉教授	2020/10/7~2020/11/9
6	工学研究科	金子 聡	Md. Nurul Amin	ダッカ大学 (バングラディシュ)	教授	2020/11/1~2020/11/30
7	工学研究科	金子 聡	Md. Ashraful Islam Molla	ダッカ大学 (バングラディシュ)	准教授	2020/11/1~2020/11/30

(3) 外国人研究者受入れ

学術研究の国際交流を推進するため、教員と共同して研究に従事する外国人研究者の本学への受入れに関し必要な事項を定めている。本学の外国人研究者として受け入れることのできる者は、

- ① 本学の教授、准教授、講師、助教又は助手と同等以上の資格があると認められる者。
- ② 原則として1カ月以上にわたり学部等で行う共同研究に貢献できる者。

外国人研究者は、あらかじめ定められた研究計画に従い共同研究に従事している。2020年度の受入は以下のとおり。

2020年度外国人研究者受入数

受入部局	人数	国籍内訳
人文学部	1	中国 (1名)
医学系研究科	1	バラグアイ (1名)
地域イノベーション学研究科	1	インド (1名)



各学部・研究科等の主な国際交流活動

1. 教養教育院

(1) シェフィールド大学 ELTC オンライン英語研修とオンライン講義

教養教育では2015年4月の新カリキュラムより英語特別プログラムを実施し、1年生を対象に、(i) 新教養教育カリキュラム理念であるグローバル化対応人材の育成を実現する、また、(ii) 英語力上級者のさらなる英語力を養成することを目指してきた。1年間の大学での授業の総仕上げとして、春休みにシェフィールド大学英語教育センターにて3週間の英語研修を実施し、年々、参加者も増加していたが、今年度はコロナ・ウィルスの感染状況の悪化で、シェフィールド大学の授業はすべてオンラインになり、イギリスへの渡航もできなかった。しかし、1年間の成果を試し、異文化に触れる体験をする機会を提供し、今後への学びの動機づけを行うため、1週間のオンライン英語研修と、シェフィールド大学教員によるオンライン講義を実施した。

参加者を募るために、まず、12月2日シェフィールド大学 ELTC のオンライン英語研修を紹介するため、ヘレン・ジョンストン・アカデミック・ディレクターはじめ教職員によるオンライン説明会を行った。そして、以下のようにオンラインによる英語研修と講義が実施された。

オンライン英語研修	オンライン講義
<p>日 時： 2021年2月22日(月)～ 2021年2月26日(金) 18:00-22:00</p> <p>提供者： シェフィールド大学 英語教育センター (ELTC)</p> <p>参加者： 計12名 (内訳：人文学部1名, 教育学部1名, 医学部6名, 生物資源学部4名)</p>	<p>日 時： 2021年3月1日(月)～ 2021年3月3日(水) 18:00-20:45</p> <p>提供者： シェフィールド大学 英語教育センター (ELTC)</p> <p>参加者： 計16名(2年生7名を含む) (内訳：人文学部2名, 医学部7名, 工学部2名, 生物資源学部5名)</p>

オンライン英語研修の概要：

- ・様々な国、文化、経歴を持つ人々と少人数のグループで相互交流の機会をもつ。
- ・事前にテストを受け、レベルにあったクラスに配属され、4技能の習得を図る基本コースを受講する。加えて、個々の必要に応じて、発音、文法、ディスカッションに特化したクラスから選択して受講する。
- ・大学の講義を受講する機会
- ・チューターとの一対一での学習相談
- ・課外活動(会話クラブなど)に参加する機会

オンライン講義の概要：

- ・3種類の領域の異なる講義
- ・講義を聴くだけでなく、前後の活動にも参加する。(講義前の準備コース→講義→講義後の議論) リスニングとディスカッションの力を試す機会になる。

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

Online Course (Mie Students) - February 2021 -		
DATE	TIME	ACTIVITY
Wednesday, 17 th February	17:30-20:30	(1) Registration & Orientation (2) Placement Test • Writing (30 mins) • OPT (up to 60 mins) • Speaking (10 minutes)
Monday, 22 nd February	18:00-19:00 19:30-20:30 21:00-22:00	Language development Language development Option choice class
Tuesday, 23 rd February	18:00-19:00 19:30-20:30 21:00-22:00	Language development Language development Option choice class
Wednesday, 24 th February	18:00-19:00 19:30-20:30 21:00-22:00	Language development Lecture Tutorials
Thursday, 25 th February	18:00-19:00 19:30-20:30 21:00-22:00	Language development Language development Option choice class
Friday, 26 th February	18:00-19:00 19:30-20:30 21:00-22:00	Language development Language development Exit tutorials

オンライン英語研修予定表

○オンライン英語研修参加者のコメントの概要

1週間という短い期間ながら、全くの異邦人であるクラスメートと英語で意思疎通をはかる必要に迫られたことで、間違いを恐れず、積極的に発言する重要性、英語が自分を助ける力になることを多くの学生が実感し、参加したことを喜び、参加しなかった友人たちに勧めたかったと思っている。

The University Of Sheffield. English Language Teaching Centre.		Mie March Lecture Programme		
Times (approx)	Monday March 1st	Tuesday March 2nd	Wednesday March 3rd	
18:00	Asynchronous pre-lecture materials released	Asynchronous pre-lecture materials released	Asynchronous pre-lecture materials released	
19:00 – 19:45	Lecture <i>Introduction to the Psychology of Music and Well-being</i> Dr Michael Bonsher, Department of Music	Lecture <i>The Science of Street Lighting</i> Dr Jim Uttley, School of Architecture	*19:30 - 20:10 Live Lecture <i>Social change in the early twentieth century</i> Andrew Burke, Lecture Coordinator ELTC	
20:00 – 21:00	Post-lecture class	Post-lecture class	*20:30 - 21:30 Post-lecture class	

オンライン講義予定表

○オンライン講義参加者のコメントの概要

三つの講義のうちには、内容の難しいもの、講義後のディスカッションの時間の短いものがあったが、概ね、講義を楽しみ、意欲的にとらえている。複数の講義に参加した学生が多く、最後の会には満足度も上がっている。

2. 人文学部・人文社会科学研究科

(1) 国際忍者プロジェクト

本年度は海外で忍者講座を開催することはできなかったが、国際交流基金からの依頼により、オンラインによる講演を行うこととなった。ロンドン日本文化センターおよびバンコク日本文化センター主催の講演会には多数の参加者があり、さまざまな質問が寄せられ、忍者への関心の高さがうかがえた。

- ①6月16日 The Japan Foundation London “Ninja: Their Philosophies and Duties”
zoomライブ 12:00-14:00 950人 講演者：山田 雄司



- ②8月29日 The Japan Foundation Bangkok J-Talk: Diggin' Culture #09 忍者学とは、なにか
YouTubeライブ 13:00-15:00 参加者920人 講演者：山田 雄司



II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

(2) 国際海女学プロジェクト

韓国東義大学校韓日海女研究所と三重大学海女研究センターとの間で交わした友好協力協定に基づく共同研究として、令和2年11月29日～令和3年3月3日、韓国東義大学校ホテル・コンベンション経営学科劉亨淑教授を招へいし、国際的な海女学研究および学術交流を行った。

教育活動としては、1月26日、吉村真衣助教担当の「特殊講義 海女からみる現代社会」にゲスト講師として「釜山の海女の現状」と題して講義をし、2月3日、6日には、塚本明・吉村真衣「特殊講義 海女漁村の祭礼行事の調査と発信」に参加、鳥羽市石鏡町で町内巡見や住民の聞き取り調査を、学生を指導しつつ行った。

また、社会活動として、1月9日 海の博物館で海女学講座第4回「日本と韓国の海女観光比較」を担当し、2月6日には、海の博物館にて、海女研究センターの紹介動画作成に協力出演した。

共同研究を通して、日本と韓国での海女観光の違い、歴史的なつながりに関して、多くの知見を得ることができた。当初の予定に比し半分以下の期間となり、コロナの影響で自由な調査活動は制限されたが、海女漁村の祭礼行事を見学し、また鳥羽・志摩の海女や海女観光に関わる多くの人たちにインタビュー取材をできたことが収穫であった。



海女学講座第4回講師担当（1月9日）



海女研究集会に参加（12月19日）



志摩市観光海女小屋調査（2月）

(3) 日本とタイを結んだ文化研修プログラム

人文学部は、2018年度から海外タイ文化研修を実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により2019年度と2020年度は学生を海外派遣する研修が中止となっている。その代替プロジェクトとして、「日本とタイを結んだ文化研修」プログラムを実施した。

本プログラムは、「タイ文化研修」と「日本文化研修」という二つの研修に構成されている。前半は、2020年10月27日-30日タイのパンヤピワット経営大学（Panyapiwat Institute of Management）が主催したオンライン研修「PIM V-LED」に人文学部の学生1名を派遣し、韓国、ミャンマー、台湾など世界各国から集まった学生らと共にタイの言語、社会、文化などを学び、グループディスカッションを行い、最後に発表を行った。

後半は、2021年2月27日（土）の14:00-17:00に「タイを結んだオンライン日本文化研修」を開催した。

当日の参加者は三重大学と、タイの8大学から計138名であった。タイの参加大学は、PIM大学、タマサート大学、チェンマイ大学、チュラーロンコーン大学、ブラパー大学、モンクット王工科大学ラートクラバン校、スワンスナター・ラーチャパット大学、ラチャパット大学シーサケート分校である。

内容は「第一部：忍者講座・タイの日本文化受容」と「第二部：質疑応答・パネルディスカッション」に分けた。第一部の忍者講座では人文学部山田雄司教授が「忍びの実像」を、吉丸雄哉教授が「忍びから忍者へ」を講演した。その後、タイ国元日本留学生協会所属日本語学校非常勤講師のウィラユット・ポッサティンクン氏により、タイにおける日本ポップ・カルチャーの普及と日本のマンガの代表作品として世界に知られるドラゴンボールの分析について発表した。第二部では講演者によるパネルディスカッションが行われ、「文化の受容について考える」というテーマで活発な議論が行われた。タイと日本の学生に新たな発見があり、有益な研修となった。



3. 教育学部・教育学研究科

(1) 「日本語・日本事情」における国際交流

教育学部・学部共通開講科目「日本語・日本事情」において、中国人留学生と日本人学生のオンライン国際交流会を2回にわたって実施した。参加学生は、天津師範大学（コンセクティブディグリープログラム）学生18名（天津、河北省、山西省、内モンゴル）、教育学部の日本人学生4名（国語教育コース3名、社会教育コース1名）である。交流会では、学生自身が決めたテーマにしたがってzoomのブレイクアウトルーム機能を用いてグループごとにディスカッションや意見交換を行い、相互交流を図り、異文化への理解を深めた。2011年より、本授業「日本語・日本事情」では留学生と地域の日本人、日本人学生等との交流を対面で進めてきた。しかし、2020年4月に渡日予定であった、天津師範大学のコンセクティブディグリープログラム学生（以下CD学生）は、新型コロナウイルスの影響で来日が困難となり、オンライン授業での履修を余儀なくされた。中国人学生は、本授業を受講し、日本語運用能力の向上を目指している。一方、日本人学生は、日本語教育に関心を持って学んでおり、教育学部が発行する「日本語教育基準科目履修修了証」の取得を希望している。令和2年は、国際交流等に関心をもつ学生間での交流が途絶えていたことから、「日本語学習」「異文化理解」のための場の創出として本事業を計画・実施した。

- ・ 第1回（2020年12月15日）グループ・ディスカッション
 テーマ①「恋人と別れた後、友達になれるのか」
 テーマ②「未来のAI翻訳は人間にとって代わることができるのか」
- ・ 第2回（2021年1月19日）Show and Tell テーマ「2020年・私の愛用品」

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

以上の内容およびテーマは、どちらもCD学生が決定した。進め方や事前の学習（資料や文献の読み込み）については第1回のみ教員が主導したが、第2回はCD学生主体で準備等も進め、交流会の司会もCD学生が行った。日本人学生への連絡は教員が行い、事前にテーマと内容を伝えた。

本事業は、コロナ禍により中断していた留学生と日本人学生の交流の場を設けることで、双方の異文化理解を深めることに寄与した。また、CD学生からは、第1回の事前準備（日本語の資料収集と交流に必要な語彙・表現を用いた口頭練習）、交流会、交流会後のふりかえり、第2回の企画といった一連の活動を通して、日本語の運用能力に役立ったという声が聞かれた。日本人学生からは、CD学生の学習に対する熱意や外国語能力に刺激を受けるとともに、共修により日本を多角的に見つめ直す機会になった。

(2) オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施

海外の教育制度や教育現場の視察は、教員を目指す学生に、自国の教育課題の相対化を通じて視野を拡大する機会となるとともに、主体的学習力の向上や、教育に対するモチベーションを飛躍的に高める機会となる。

ニュージーランドでは急速に教育改革が進み、自立的な学校経営が推進され、教員同士の協同的な職能開発が行われている。教員を目指す学生がこのような教育現場に触れることで、教員になるためのモチベーションを高めると考え、オークランド大学教育学部に海外教育研修プログラム実施に関して交渉し、平成23年度よりニュージーランドにおける教育研修プログラムを継続している。令和2年度は9月に実施を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったため、研修実施先のオークランド大学と協議を進め、オンラインによる講義を主体としたプログラムを実施した。参加予定をしていた学生に対応するとともに、海外研修に関心のある学生に周知することで研修参加を促進する機会とした。

以下のテーマでオークランド大学名誉教授のDr. John Hopeによりオンラインによる講義とディスカッションを行った。

1. Education in response to the COVID-19 outbreak
11月25日 13時—14時30分 参加者12名
2. Online education system in Auckland
12月2日 13時—14時30分 参加者14名
3. Possible online international education programme
12月16日 13時—14時30分 参加者11名
4. Life as a new New Zealander Dr. John Hope,
12月23日 13時—14時30分 参加者8名

予定していた研修ができなかったが、10月にオンラインによるプログラムを提案したところ受け入れられ、何とか実施することができた。これは、これまでの交流実績の成果による。当初研修に参加希望だった学生は16名であったが、オンラインへの参加は少なかった。やはり現地での体験を希望していたようだ。

オークランド大学教育学部からはプログラム実施の受け入れについて承諾を得ており、来年度の実施を予定しているが、コロナの状況と参加希望者によって判断することになる。現地での実施ができない場合は、早期にオンラインによる研修を企画する予定である。

(3) ミシガン大学との国際交流

三重大学の学生は、英語を使ってグループで日本文化をプレゼンテーションし、その後、個人活動の一環として米国の事情をミシガン大学の学生に質問した。後半では、小グループで、ミシガン大学の学生が日本語で様々な日本文化について三重大学の学生に聞き交流を行った。

実施1月20日、三重大学：学生8名、教員1名、ミシガン大学：学生13名、教員2名が参加した。実施はZoomを用いたオンラインで行った。詳細は以下の通りである。

- ①はじめに、三重大学とミシガン大学の教員と学生が自己紹介を全員に対して行った。
- ②次に、三重大学の学生が日本の文化や学生生活について、プレゼンテーションアプリの1つPreziを活用してグループで発表を英語で行った。
- ③グループ発表の後、ブレイクアウトルームを活用して、三重大学とミシガン大学の学生で小グループをつくり、三重大学の学生がミシガン大学の学生に英語で自分の夢やキャリアについて話し、意見交換をした。
- ④後半では、ミシガン大学の学生が、三重大学の学生に日本語を使って、自身が興味を持っている日本のアニメなどについて質問のやり取りを行なった。
- ⑤最後に、三重大学とミシガン大学の学生がGoogleのJamboardを活用して、協働で、その日に学んだ内容を中心に振り返りを記述した。

米国ミシガン大学の日本語学習をしている学生と英語教育の学生が異文化交流を英語、日本語を用いて行った本事業の結果について、お互いが相手の母語を学習している外国語学習者として、異文化の知識を得ながら相手との意思疎通を円滑に行うことができた。また、言語の難易度を調整しながら交流し相互理解を図るコミュニケーションの戦略を本事業による交流を通して学生は高めることができた。さらに、三重大学の英語教育コースの学生は、オンラインで米国の学生と交流することによって、ICTを活用した英語教育の実践方法の一つを自ら体験しICT活用の技能知識を習得し、英語教員としての資質を向上させる機会にもなった。米国の多くの大学では、共同作業をする際にはGoogle Jamboardを活用しているという情報を得ることもでき、グローバルスタンダードを意識した今後のICT教育に関する示唆も与えられた。

(4) メキシコのアメカメカ教育大学との国際交流

第一回はアメカメカ教育大学のマルチネスロペス先生に「メキシコの教員養成や英語教育について」講演をしていただいた。外国の教員養成の実態を知り、日本との英語教育との違いへ意識を高め自らの英語教員像についてグローバルな視野からとらえることができた。実施12月18日16名（内訳：三重大学：学生14名、教員2名）。実施はZoomを用いたオンラインで行った。概要は以下の通りである。

- ①メキシコの英語教育、教育大学における教員養成課程での学修についての講演を聴講した。講演は4つのパートに分け15分ごとに質疑応答の時間をとった。
- ②学生は題材に関連した視聴覚課題で学習し、メキシコの文化、教育についての予備知識を得て、関心を高め、講演内容の理解の下地とした。講演の主なトピックは以下の4つであった。1. Teaching English to young learners. Where to study? 2. English level requirements. 3. English Curriculum at the Normal School. 4. Teaching English in Mexico and teaching practice.

第二回はアメカメカ教育大学のマルチネスロペス先生に「メキシコの文化と日本の文化の違い」について講演をしていただき、その後、学生同士のディスカッションを行った。講演後は、質疑応答をし、その後、アメカメカ教育大学の学生と三重大学の学生がディスカッションにより異文化理解を深めた。ディスカッションはブレイクアウトルーム機能を用い小グループで実施することで、より発言回数を確保できるようにした。対象学生は、英語科学生と希望者、実施は12月21日、参加者16名（内訳：三重大学：学生7名、アメカメカ大学：学生7名、教員2名）であった。実施はZoomを用いたオンラインで行った。事前に各グループの司会者、記録者、報告者をあらかじめ決め、円滑に議論が進むよう準備した。メキシコが舞台となった映画「Coco」を参加者は事前に視聴し、講演内容とストーリー内の出来事や登場人物の考察をもとに、文化による違い、特に「死者との関係や家族観」について質問項目に答えながら小グループで議論した。

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

2つの講演と交流において、学生は自らの大学での学びや英語力、文化の違いや共通点、自文化を説明する難しさなど多くの学びがあった。また自分たちと同様に外国語として英語を学び、英語の教員になろうとしている海外の学生との交流は教育観、世界観を広げる上で大変意義があるものであった。ロベス先生による講演で海外の大学の教員養成について学ぶことで自らの学びの過程を振り返る機会にもなった。アメカメカ教育大学との交流は今回が初めてであったが、互いの文化に興味を持ち合い、共に教員養成課程であり教職への関心を共有でき、英語でのコミュニケーション力を育成していくために今後も交流を持続させていく意向である。

(5) 多文化教員養成を目的とした海外体験学習プログラム「海外教育実地研究B」の実施

本事業では、以下の通り、講演会および国際交流活動を行った。

- 1) 講演会 (2020年12月14日)「ベトナムと日本語教育」
講師：伊藤亜紀 (国際交流基金ベトナム日本文化交流センター 日本語専門家)
Ta Thanh Hien (タ・タイン・ヒエン) (同所属 常勤講師)
- 2) 講演会 (2021年1月18日)「ベトナム初中等での日本語教育」
講師：武田素子 (国際交流基金ベトナム日本文化交流センター 日本語専門家)
Ta Thanh Hien (タ・タイン・ヒエン) (同所属 常勤講師)
- 3) タイ・チュラロンコン大学文学部との学生間交流 (2021年2月5日)

講演会・ワークショップには、国内外で日本語学習者の伸びが目覚ましく、初等教育の第一外国語で日本語が選択される学校も出てきたベトナムから、国際交流基金の日本語専門家3名を招いた。また、タイ・チュラロンコン大学文学部で日本語を学ぶタイ人大学生と三重大学生で学生交流を行った。「海外教育実地研究B」の履修学生2名に加え、ユニバやHP等で周知し、本企画に関心のある全学学生・教職員にも参加を促した。

教育現場で急増する外国人児童生徒への日本語指導が行える教員養成の一端を担うとともに、海外体験を通じて国際化への取組に寄与するため、2020年度から授業科目「海外教育実地研究B」(教育学部・学部共通開講科目)を新設した。担当教員は、服部明子(教育学部)、林朝子(教育学部)、大坪慶之(教育学部)、黄文哲(地域人材教育開発機構)である。当初、本事業は、「海外教育実地研究B」における多文化教員養成を目的とした海外体験学習プログラムとして台湾での海外研修の実施を2021年2月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で海外研修を中止し、海外の日本語教育に関するオンラインによる講演会とワークショップ、学生交流を代替的に行った。

近年、日本語学習者が現地および日本国内で急増し、初等教育の第一外国語に日本語学校を設置する学校も出てきたベトナムから、国際交流基金の日本語専門家による最新事情を交えたレクチャーが受けられたこと、タイとの交流では、新型コロナウイルスの体験を共有しながら国際交流ができたことが有意義であった。また、本事業は、単発的ではあったものの、次のようなオンライン留学の側面を持たせることができたことへの意義が認められる。第一に、オンラインではあるが学生への海外体験への参加を促進し、日本語教育および異文化・多文化への理解を深める機会となったこと、第二に、日本語教育になじみがない学生や教職員にとっても、日本語教育とその関連分野について基本的な知識を身に付け、日本語指導の実践への理解を深める研修として機能していたことである。第三には、タイ・チュラロンコン大学文学部で日本語を学ぶタイ人大学生と三重大学生でオンラインの国際交流が実現したことが挙げられる。本事業では、国際交流基金ベトナム日本文化交流センターの方々およびタイ・チュラロンコン大学から全面的に多大な協力が得られたが、これは、教員(服部・林)の個人的ネットワークとリソースに依るところが大きい。今後は教員がネットワークの維持と多方面との関係構築に努めることで、学外にも参加者を広げた講演会やワークショップの実施に発展させる可能性があると思われる。

4. 医学部・医学系研究科

医学部では、国際通用性のある能力を持って地域に貢献する医師、グローバル社会に共通する医療課題の解決に取り組む医学研究者の養成を目的に、専門英語教育、海外での体験的学習機会の提供、学内教育環境の国際化に取り組んでいる。外国人教員、国費外国人留学生優先配置制度で留学中の外国人医師で構成される教員チームによる英語教育やICTを活用した海外研究者による最先端研究に関する講義、海外からの短期招へい研究者による講演会などを実施している。本邦では、医学教育の国際標準化を目指して世界医学教育連盟の基準による医学教育分野別認証評価制度が開始されており、本学も今年度教育カリキュラムや評価システムを検証し受審した。またコロナウィルスの影響が様々にあったがそれらについても柔軟に対応した。

(1) 外国人留学生のオンライン学位審査

国費外国人留学生優先配置での入学者なので、大学院委員長の制度の説明肝胆膵移植外科のザンビア人留学生と成育医学（三重病院の連携大学院）のエジプト人留学生がコロナウィルスの影響で来日が難しくオンライン学位審査に臨み合格した。

(2) 外国人留学生の外科医更新試験の別室受験

国費留学生のザンビア人医師の外科医師免許更新試験がコロナの影響でジンバブエに行くことができず受験できない状況になった。先方より三重大学医学部附属病院長で肝胆膵外科元教授の伊佐地秀司先生と医学・看護教育センター准教授櫻井洋至先生に代理試験官をお願いし、Surgeons East Central and Southern Africa Plastic Surgery Examの筆記試験を2020/9/2に三重大学医学部にて受験し無事合格した。来年度ザンビアにて口頭試験を受験予定である。

(3) 海外の研究者との共同研究

イリノイ大学よりIsaac Cann先生をお迎えする予定であったがコロナウィルス感染拡大により来日が不可能となったため論文のみ共同執筆を行った。また他ノルウェーのBergen大学および中国のWenzhou (Medical University) 大学と共同研究結果を報告した。

米国のイリノイ大学との共同研究

1. D'Alessandro-Gabazza CN, Kobayashi T, Yasuma T, Toda M, Kim H, Fujimoto H, Hataji O, Takeshita A, Nishihama K, Okano T, Okano Y, Nishii Y, Tomaru A, Fujiwara K, D'Alessandro VF, Abdel-Hamid AM, Ren Y, Pereira GV, Wright CL, Hernandez A, Fields CJ, Yau PM, Wang S, Mizoguchi A, Fukumura M, Ohtsuka J, Nosaka T, Kataoka K, Kondoh Y, Wu J, Kawagishi H, Yano Y, Mackie RI, Cann I, Gabazza EC. A Staphylococcus pro-apoptotic peptide induces acute exacerbation of pulmonary fibrosis. *Nat Commun.* 2020 Mar 24; 11(1):1539. doi: 10.1038/s41467-020-15344-3.
2. Pereira GV, Abdel-Hamid AM, Dutta S, D'Alessandro-Gabazza CN, Wefers D, Farris JA, Bajaj S, Wawrzak Z, Atomi H, Mackie RI, Gabazza EC, Shukla D, Koropatkin NM, Cann I. Degradation of complex arabinoxylans by human colonic Bacteroidetes. *Nat Commun.* 2021 Jan 19; 12(1):459. doi: 10.1038/s41467-020-20737

ノルウェーのBergen大学との共同研究

1. Husebø GR, ebø GR, Gabazza EC, D'Alessandro Gabazza C, Yasuma T, Toda M, Aanerud M, Nielsen R, Bakke PS, Eagan TML. oagulation markers as predictors for clinical events in COPD. *Respirology.* 2020 Nov 9. doi: 10.1111/resp.13971.

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

中国のWenzhou (Medical University) 大学との共同研究

1. Takeshita A, Yasuma T, Nishihama K, D'Alessandro-Gabazza CN, Toda M, Totoki T, Okano Y, Uchida A, Inoue R, Qin L, Wang S, D'Alessandro VF, Kobayashi T, Takei Y, Mizoguchi A, Yano Y, Gabazza EC. Thrombomodulin ameliorates transforming growth factor- β 1-mediated chronic kidney disease via the G-protein coupled receptor 15/Akt signal pathway. *Kidney Int.* 2020 Nov; 98(5):1179-1192. doi: 10.1016/j.kint.2020.05.041.

(4) 国立大学病院長会議委員会国際化協議会担当者会議の参加

上記会議に2021年2月16日にオンラインで伊佐地病院長・国際医療支援センター長（成島）が、参加した。三重大学医学部からは、人材、技術、システムのアウトバウンドに関わる提言について（他の先進国における人材・技術の海外展開戦略に関する報告）を行った。ODAなどのデータから海外への健康医療分野において、非ODA国の中国が最も資金を投入しており、以下アメリカ、ドイツ、イギリスと続き、5位に日本が入っていた。またcovid19に関連して様々なプロジェクトが進行中であることを将来像実現化年次報告2020/行動計画2021に報告した。

(5) 「国際保健と地域医療」の連続講義開催（堀 浩樹先生 医学医療教育学）

Zoomを用いて国際保健と地域医療にかかわる講義全15回を行った。

■ 対象学生

医学科1年生（必須科目） 125名
他学部生、看護学科生 ともに1名程度
国際交流センターの留学生（天津師範大学）7名
高大連携事業の高校生5名

■ 講義全15回 内容一部抜粋

- ・堀 浩樹（三重大学大学院医学医療教育学教授） Think globally, Act locally
- ・水谷真由美（三重大学大学院広域看護学領域（地域看護学）） 農村地域の強みを活かした国際地域看護活動
- ・久留宮 隆（医療法人永井病院 救急部 外科医師） 「私にとっての医療」－国際医療協力の経験から－
- ・土屋 宏人（東京都立小児総合医療センター 救命救急科） 学生からの国際医療
- ・成島 三長（三重大学大学院形成外科学教授） 三重の産業を支える外国籍住民の医療と未来
- ・Chihena Banda（Clinical Fellow and PhD Student） ザンビア人医師から見る日本の国際医療貢献
- ・谷村 晋（三重大学大学院地域看護学教授） 顧みられない熱帯病（NTD）

(6) 国際医療支援センターホームページ改修

初代センター長の笠井先生によりホームページを改修し、診療についてと研修についての二本柱についてわかりやすいホームページに改修しました。診療については日本語に加えて、約3,000人/年ずつ増加傾向にある外国人住民の方が安心して三重県内の病院へ受診できる体制を構築するため、英語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語の5言語での対応としました。これは県内の他言語話者住民の割合に合わせて言語を選択した。



(7) 病院内掲示物の多言語化

ホームページの改修と併せて、各階のフロア表記について院内掲示の他言語化を進めました。日本語に加えて英語・ポルトガル語・スペイン語による表記を加えました。また入院受診案内のポルトガル語版とスペイン語版を刷新し、ホームページからもダウンロードできるようにした。

(8) ポルトガル語とスペイン語による入院案内動画の作成

医療通訳士のワキモトマリアさんのご協力のもと、わかりやすい初診のかかり方に関する動画を作成し大学病院 youtube チャンネルおよびホームページで公開した。



(9) 留学生の臨床研修許可申請更新

形成外科にて研修しているザンビア大学からの留学生の臨床研修許可の更新申請を行い、無事更新許可を得ました。2年間の許可を大学院生であることを理由にさらに2年延長することができた。

(10) 海外臨床実習医学部生の交換

2020年度は、三重大学国際交流推進経費の助成を受けて、海外臨床実習、早期海外体験実習、海外交換学生の本学への受入れを実施する予定であったが、コロナウイルス感染拡大の影響によりすべて中止となった。

(11) 2020年度三重大学看護学科の国際交流（派遣）

医学部看護学科（大学院医学系研究科看護学専攻）のドイツ および タイ提携校との相互交流促進事業についてはコロナウイルス感染拡大に伴い中止している。

5. 工学部・工学研究科

(1) HUST ツイニング・プログラム集中講義および活動内容

1. 大学フェスタ (2020.8.19～21 Zoom開催, 主な担当: 中西栄徳 准教授)

例年11月頃にハノイ工科大学(以下HUST)にてコンソーシアム参加全大学の説明会が対面で行われるが、本年度はCovid-19の影響により、2020年度初めではベトナムへの渡航可否が不確定であり、ハノイ工科大学でも授業を含めた各種のスケジュールが立たなかった。そこで、8月に「大学フェスタ」をオンラインにて開催し、大学紹介をおこなった。参加大学は北見工業大学、室蘭工業大学、岐阜大学、三重大学、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学(オープンキャンパス)の6大学であった。

2. 大学説明会 (2020.11.17 Zoom開催, 主な担当: 中西栄徳 准教授)

出願期間(2020.11.16～27)に合わせ、各大学の担当者が上記日程でより詳細な大学説明を行った。参加大学は、北見工業大学、室蘭工業大学、群馬大学、豊橋技術科学大学、岐阜大学、三重大学、和歌山大学、長岡技術科学大学の8大学であった。

3. 熱力学の集中講義 (2020.12.14～18 Zoom開催, 担当: 丸山直樹 准教授)

17期生(NUT17, 2021年4月来日予定の3年次学生)の20名を対象に「熱力学」の授業を上記の期間で45分授業を18時限分を行った。4名のハノイ工科大学からの留学生の協力を得て進めた。この期間、HUST側では対象の学生が全員登校しており、教室前方の大きなスクリーンに三重大学側の板書内容を映し、HUSTの学生の様子はwebカメラで中継され、双方で様子を見ながら授業を進めた。板書による解説を中心とし、「日本語による会話」を重視して、適宜学生との質疑応答を含めた。こちらからの問いかけに対して学生の反応が良く、積極的に意見を述べてくれた。リモート集中講義の様子を図1～4に示す。通常の教室授業のように1つのスクリーンを全員が見る事で、隣席の学生と不明な点を相談しながら受講できる点は良かったと思われる。対面による授業が最も望まれるが、HUST側の教室にホワイトボード等を準備して頂き、こちら側の大きめのモニターに映せば、学生の解答状況がより分かりやすくなり、リモート授業においてもかなりのコミュニケーションをとる事ができるかもしれないと感じた。



図1 講義風景(丸山直樹准教授)



図2 受講生の反応(HUST教室)



図3 受講生によるZoom越しの解答



図4 受講生全員集合

さいごに

上記の各種行事だけでなく、コンソーシアム会議等の各種会議開催に際して、幹事校である長岡技術科学大学ならびにハノイ工科大学の関係方々には、スケジュール調整や準備そして様々なサポートをして頂き大変お世話になりました。また、各種書類作成に関して本学関係者の方々にも大変お世話になりました。ここに記して感謝の意を表します。

(2) 7研究領域「オンライン国際シンポジウム」の開催

工学研究科では、専攻横断的に7つの研究領域(A領域：ロボティクス・メカトロニクス, B領域：地球環境・エネルギー, C領域：情報処理・情報通信, D領域：ライフサイエンス, E領域：ナノサイエンス・ナノテクノロジー, F領域：先進物質・先進材料, G領域：社会基盤・生産)を設け、地域・国際的課題に対する迅速で柔軟な研究体制の整備とともに、大学院の国際化教育の充実化を図っている。その一環として、各領域では、それぞれの特徴・特色を取り入れた国際シンポジウムを実施している。本年度も、具体的な実施形態は異なるが、公用語を英語とし、学生の英語口頭発表、英語ショートプレゼンテーション・ポスター発表、また当該分野で活躍する外国人研究者の招待講演を中心とした国際シンポジウムを、オンラインで以下の通り開催した。

①A領域国際シンポジウム（招待講演：ドイツ4名）

2021年12月2日に開催した。ロボット、制御、人間-機械共生、自然エネルギー、量子情報研究分野における研究成果について、本研究科大学院生27名による講演があった。後日、3月11日にドイツ・ロイトリンゲン大学のメカトロニクス関連の教員による招待講演をオンラインで開催し、87名が参加した。まず大学のビデオを観覧したのちにGerhard Gruhler教授による“インダストリー4.0とメカトロニクス・ロボティクスへの影響”と題する基調講演をおこなった。次に、Arnd Buschhaus教授、David Pough教授によるIOTやアンテナの研究の紹介の後、Max Alber氏により、ロイトリンゲン大学工学部における二国間交流プログラムについての説明を聞いた。質疑も含め、2時間半の心温まる交流となった。

②B領域国際シンポジウム（招待講演：マレーシア1名）

2020年10月30日に開催した。国内から参加者76名に加え、海外から20名ほどの聴講があった。環境エネルギー関連の研究テーマについて、招待講演1件、本研究科大学院生による口頭発表22件があり、招待講演では、マレーシアペルリス大学のZuradzman Bin Mohamad Razlan准教授による「Air Conditioning System for Specific Application: Focusing on Characterization between Psychrometrics and Lithium-Ion/Fe/MgO-based spintronics Polymer Battery Lifespan」と題するポリマー電池の研究に関する講演が行われた。

③領域国際シンポジウム（招待講演：バングラデシュ1名）

2020年9月24-25日に開催した。参加者数は66名で、通信工学、情報処理、計算機工学、コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ネットワーク、パターン情報処理、人間情報学、ヒューマンインタフェース、ナノセンシングの各教育研究分野における研究成果について、本研究科大学院生33名によるポスター発表があった。招待講演では、バングラデシュ・ダッカ大学のMd Atiqur Rahman Ahad教授より「Activity Recognition: Healthcare Perspectives & Others」と題するコンピュータ・ビジョン分野の最新の研究成果について報告があった。

④D・F領域国際シンポジウム（招待講演：アメリカ1名）

2020年9月24-25日に開催した。生体システム工学、分子生物工学、生体材料化学、量子応用工学、高分子設計化学、有機精密化学、有機機構化学、エネルギー変換化学、分析環境化学、有機素材化学、無機素材化学教育研究分野における研究成果について、本研究科大学院生55名により英語で口頭発表が行われた。その内、50名の発表は、修士論文の中間発表を兼ねた。すべて口頭発表としたために、その場での質疑応答の時間を設けられず、代わりにMoodleを使って後日、発表内容に関する質疑応答を行なった。招待講演には、米国・Stony Brook大学のTadanori Koga博士により、「Big Effects of Nanoscale Polymer Chains Adsorbed on Solids」と題して、近年、注目を集めている高分子薄膜物性の最新の研究成果について報告があった。

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

⑤国際シンポジウム（招待講演：インドネシア1名）

2020年11月18日に開催した。参加者数が87名で、オプトエレクトロニクス、有機エレクトロニクス、量子エレクトロニクス、高周波フォトンクス、量子ナノ機能科学、ナノ材料物理化学、ナノデザイン、物性物理学、量子物理学教育研究分野における研究成果について、本研究科大学院生28名によるショートプレゼンテーション及びポスター発表があった。招待講演には、インドネシア・バンドン工科大学のAbdul Muizz Tri Pradipto博士による「Fe/MgO-based spintronics」と題するスピネレクトロニクス分野の最新の研究成果について報告があった。

(3) オンライン「海外短期インターンシップ」の開催

工学部・工学研究科では、企業の海外活動に触れ、グローバル人材への理解・モチベーションの涵養、地域企業の魅力・アクティビティの実体験を目的に、2015年度から毎年、学部生及び大学院生を対象に「短期海外インターンシップ」を実施している。昨年度はコロナ感染拡大防止のため中止せざるを得ない現状にあったが、本年度は、三重県内企業の協力のもと、12月22日から23日にかけてオンライン海外研修を実施することができ、学生15名の参加があった。初日の事前研修では、ジェトロ（日本貿易振興機構）東京本部から「アセアン諸国の現状」と題する講演、本研究科から「アジアと日本：建築文化歴史」と題するオンライン講演を、引き続いて、本学卒業生の海外駐在・研修経験者を交えたオンライングループ研修（企業の海外活動に関する討論会）を実施した。2日目には、ベトナム編とタイ編の国別インターンシップを実施した。ベトナム編では、住友電装株式会社、三重金属工業株式会社、ヤマモリ株式会社から、タイ編では、株式会社安永、株式会社百五銀行、日本トランスシティ株式会社からご協力を頂き、各社の海外事業所と直接オンラインで接続した臨場感あふれる海外研修となった。事後アンケートでも、多くの参加学生から満足の評価を頂き、海外で働くことの楽しさや多様な文化と海外活動の関係を学ぶことができた、また、将来海外で働きたい気持ちが一層強くなったなど、多くの感想があった。

(4) オンライン「さくらサイエンスプラン」の開催

2021年1月6日から8日までの3日間、「次世代情報通信・エネルギーを支えるアジア・マテリアルズ・ネットワークの構築」をテーマとした材料設計シミュレーション研修や地域・文化等の情報交流会を、科学技術振興機構「さくらサイエンスプラン」及び本学国際交流事業助成の支援のもと実施した。インドネシア・バンドン工科大学、ガジャ・マダ大学、インドネシア科学院から14名、本学から14名参加した。初日は、本国際交流事業の過去、現在、未来をテーマにした講演と参加者全員の自己紹介によるオープニング、マテリアルズデザイン（今回は材料設計シミュレーションについて）の現状を紹介するとともにシミュレーション利用のための計算機・ネットワークに関する初歩の実習を行った。2日目には、固体物質の電子構造シミュレーション方法の学習と、本格的に電子素子材料の電子構造シミュレーションを実施し、当該分野の理解を深めた。3日目は、来年度の国際交流事業を視野に学生によるミニシンポジウムを開催した。本学学生と昨年度21さくらサイエンス研修に参加した学生（バンドン工科大学）からの最近の研究成果発表や参加者による各大学・研究機関と地域の紹介発表があり、また先方大学・機関の教員・研究者を交えた国際共同研究に関する情報交換を行った。

6. 生物資源学部・生物資源学研究科

(1) 各種JICA教育プログラムの実施

JICAによる発展途上国の国作りのための教育プログラムとして実施されている事業の多くに生物資源学研究科は参加している。今年度はアフリカ域を対象としたABEイニシアティブ事業（Master's Degree and Internship Program of African Business Education Initiative for Youth）、南太平洋の島嶼国からの太平洋島嶼国リーダー教育支援プログラム（Pacific-LEADS: Pacific Leaders' Educational Assistance for Development of State）による正規留学生、食料安全保障のための農学ネットワーク（Agri-Net: Agriculture Studies Networks for Food Security）による正規課程入学を目指す研究生の受け入れを行って、さらにSDGsグローバルリーダー（SDGs Global Leader）の正規課程学生の受け入れを開始した（2021年3月現在、入国待ち）。これらは、研究科がこれまでに整備していたオンライン会議設備やオンライン入試制度により、本年度も事業が継続できた。これからも実績を積み重ね、「JICA開発大学院連携」による教育プログラムにより多くの途上国留学生が本研究科で学ぶことになる。

(2) マレーシア・トレンガヌ大学とのオンラインセミナー

マレーシア・トレンガヌ大学は本年度、大学間協定へ移行した重要な交流校である。実施予定であったマレーシアトレンガヌ大学でのサマースクールを中止し、オンラインにて生物資源学研究科卒業生でもある教員を講師に迎え、サマースクールの説明会を学部1年生対象に実施、また、先方の学生を対象に三重大が研究内容と交流についてwebセミナーを実施する計画を立てた。突発的な事故のため、マレーシアからの講義はやむなく中止されたが、生物資源学部1年生260名に対しサマースクールやマレーシアでの交流事業の説明を実施した。また別日のマレーシア・トレンガヌ大学向けオンラインセミナーでは三重大から生物資源学研究科長を始め4名の教員による講演、トレンガヌ大学側は水産食品科学部長を始め同数の教員による講演が行われた。

1年生向けの講義においてのアンケートでは3割が半年以上の留学をしたいと回答しており、また5割の学生がTri-Uやサマースクールなどの短期留学プログラムへの参加を希望していることが把握できた。コメントではコロナ下でパソコンのモニターの前に縛り付けられるオンライン講義の中、収束後に海外へ思いを馳せる学生が多いことが判った。この気持ちをくみ取り、早期に派遣を再開できる体制の整備に努めたい。

UMT
MIE-U and UMT JOINT WEBINAR
 Better Understanding of Biodiversity and Sustainable Development of Biological Resources
 07 DECEMBER 2020 | 14:00-16:00 PM (Malaysia) | 15:00 - 17:00 PM (Japan)

AGRICULTURE AND FOOD SCIENCES SESSION

01 Assoc. Prof. Dr. Shamsul Bahri Abd Razak
 Faculty of Fisheries and Food Science, Universiti Malaysia Terengganu

02 Assoc. Prof. Dr. MASUDA Yuichi
 Graduate School of Bioresources, Mie University

03 Ts. Dr. Fauziah Tufail Ahmad
 Faculty of Fisheries and Food Science, Universiti Malaysia Terengganu

04 Assoc. Prof. Dr. TSUKADA Morio
 Graduate School of Bioresources, Mie University

FISHERIES AND AQUACULTURE SESSION

05 Ts. Dr. Lokman Hakim
 Faculty of Fisheries and Food Science, Universiti Malaysia Terengganu

06 Assoc. Prof. Dr. TSUTSUI Naoki
 Graduate School of Bioresources, Mie University

Moderator: Dr. Sharifah Noor Emilia Syed Jamil Pudaak
 Faculty of Fisheries and Food Science, Universiti Malaysia Terengganu

Webinar Hostings: <http://umt.webex.com/umt/jointseminar.php?>
<http://www.032329955401@umt.edu.my>

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

(3) インドネシア留学生会・在インドネシア三重大学同窓会とのオンラインセミナー

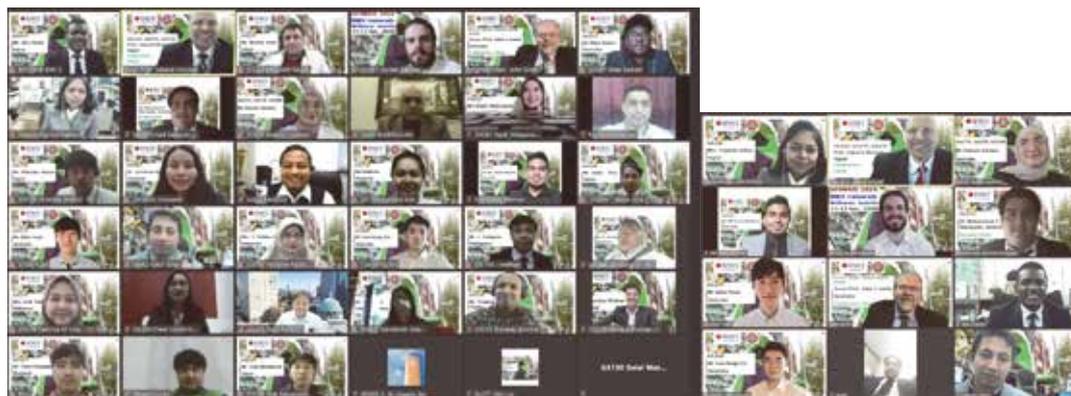
生物資源学研究科が有するダブルディグリープログラム（前述）は卒業後の学生が、博士後期課程へ入学、更に卒業後は三重大学のインドネシア国内の協定大学の教員になったり、日本語を活かした職業に就いている。これらの三重大学へ留学し、帰国後交流校の教員となった卒業生を中心に結成された在インドネシア三重大学同窓会、現在三重大学へ留学中のインドネシア人留学生と生物資源学研究科国際交流委員会、工学研究科国際交流委員会が共同で企画し、三重大学への留学を促す交流会を企画した。12月19日及び12月20日にのべ140名のインドネシアからの参加を得て、吉松副学長、工学研究科中村教授、生物資源学研究科中島教授が三重大学の大学院進学システムと主要な研究室紹介を実施した。バーチャル三重県ツアー、学内ツアーや、卒業生による留学生の生活紹介、研究成果の公開など盛大に行われた。この後、インドネシアからの留学希望マッチング依頼が殺到し、担当教員が苦勞するほどの成果を上げた。今後、体制を整えながら継続的に機会を設定して行く予定である。

(4) 2020年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」

2019年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に工学研究科と共同で提案した「持続可能な地域と世界の構築のための生物資源学と工学からのアプローチ」が採択された。このプログラムは渡日前に国際環境教育研究センターが運営するオンライン教育ツールであるSciLetsの各言語版を利用した事前学習と、インターンシップを特色としており、今後3年間にわたり国費外国人留学生が優先的に配置される。2020年度は生物資源学研究科へ入学予定の4名中1名が来日、留学生生活を開始している。

(5) オンライン交流事業：オーストラリアメルボルン市RMIT大学

2020年11月11日～13日3日間、オーストラリアメルボルン市RMIT大学の准教授Dr. John V. Smith氏と国際学会「ZOOMオンライン」を実施した。学会終了後には、この機会を利用して、三重大学の国際環境保全学研究室とRMIT大学の土木学科との間で国際交流が行われた。両大学の大学院生「博士前期課程・後期課程」が参加し、研究に関する意見交換を行った。今後の両大学の学生交流や研究者招聘の可能性について意見交換が行われた。



(6) オンライン交流事業：JAPAN-MALAYSIA-INDONESIA (JMI) ONLINE CULTURAL EXCHANGE PROGRAM 2021

JAPAN-MALAYSIA-INDONESIA (JMI) ONLINE CULTURAL EXCHANGE PROGRAM 2021が2021年1月4日と5日の日程で実施された。マレーシア・クランタン州のクランタン大学環境系学部の学生が中心に企画、運営され、インドネシア・ハサヌディン大学（マカッサル、スラウェシ島）とオンラインでの文化交流イベントであった。三重大学からは生物資源学研究科森林系教員、学部3年生や大学院生、留学生らが参加し、日本農業遺産にも選定された尾鷲ヒノキや三重県の観光、折り紙などを紹介した。海外の学生からはアニメや寿司など日本文化に関するたくさんの質問があった。



7. 地域イノベーション学研究科

第12回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ (IWRIS2020)

地域イノベーション学研究科では、2009年の研究科発足以来、本研究科が主催する国際ワークショップを毎年開催してきました。本年は、全世界に拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、海外からの研究者の招へいができない状況から、当初計画の2日間の開催計画を1日の開催に集約し、10月15日(木)に地域イノベーションホールにて「第12回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ (The 12th International Workshop on Regional Innovation Studies (IWRIS2020))」を開催しました。開催に当たっては、感染予防対策として、Zoom併設、座席間の空間保持、サーマルカメラによる検温やアルコール消毒等の実施、バンケット中止など、当然ながら例年とは異なる開催となりました。

今回の国際ワークショップでは、国内在住の外国人研究者をコメンテーターとして招待するとともに、一般講演では本研究科を中心とした本学大学院生等が英語で地域イノベーション学に関する研究発表を17件行い、参加者数は97名(うちZoom参加者19名)となり、幅広い研究に対して熱心な討論が行われました。また、学生は、英語での研究論文の執筆、研究発表や質疑応答、それに加えてワークショップ運営に関わるなど、英語コミュニケーションを経験する意義ある場となりました。



また、一般講演の発表者の中から、最優秀論文賞の1名、優秀論文賞の3名が選ばれ、11月6日(金)に本研究科が開催している研究内容講演会において表彰を行いました。



国際交流センターの活動

1. 留学生受け入れプログラム

(1) 国際交流センター所属の短期留学生コース

国際交流センターでは、交流協定のある海外の大学からの推薦により、4月または10月に留学生を受け入れており、滞在期間は最長1年間で、留学生は主に日本語コースの授業を受講する。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、天津CD生19名のみを受け入れた。

(2) 日本語・日本文化研修留学生（日研生）コース

大使館推薦もしくは大学推薦による国費研究留学生（日本語・日本文化研修留学生）、及び本学の交流協定校からの推薦による私費留学生（特別聴講学生）のためのプログラムである。母国の大学で日本語・日本文化に関する分野を専攻している学生を対象とし、日本語の能力を向上させながら、日本と自国・他国の文化の比較を通して文化の個別性と普遍性について理解を高めることを目指す。

2020年度は、中国、カンボジア、タイ、ドイツから各1名の計4名を受入れた。指導教員の下でそれぞれの研究テーマに基づいて調べ、国内外でデータ収集をするなどして研究を進めた。他学部で研究テーマに関連のある科目を聴講した日研生もあり、研究成果は2月に中間発表会、7月に研究発表会で披露された。留学生ならではの興味深いテーマや視点に刺激された参加者との間で、活発な質疑応答が交わされた。彼らの論文は、『日本語・日本文化研修留学生 研究レポート集XV II』として発行した。研究テーマは下記のとおり。

日本語・日本文化研修留学生の研究内容一覧（2020年度9月）

出身国・地域（出身大学）	研究タイトル	指導教員
タイ （カセサート大学）	タイと日本語のオノマトペの比較 －音と意味と翻訳からの理解度－	福岡 昌子 （地域人材教育開発機構・教授）
ドイツ （ハイデルベルク大学）	日本の学校教育における英語教育の問題点とその改革 －改善案と実践活動－	松岡知津子 （地域人材教育開発機構・准教授）
中国 （延辺大学）	コロナ後の世界における茶道の可能性 －アンケートとインタビュー調査からの検討－	栗田 聡子 （国際交流センター・准教授）
カンボジア （王立プノンベン大学）	環境問題における日本とカンボジアの相違点 －人々の意識と知識－	正路 真一 （地域人材教育開発機構・助教）

2. 国際教育活動の概略

国際交流センターの教育活動は、授業と海外（語学等）研修に分かれ、授業は主に留学生が対象のA.「日本語・日本文化教育プログラム」と、英語で学ぶB.「国際キャリアアッププログラム」の2つに分けられる。「日本語・日本文化教育コース」は、留学生が日本語で受講するクラスが中心で、全学の留学生向けに日本語および日本文化に関する教育を提供するものである。両方のプログラムには、日本人学生と留学生が共に学べる「国際共修」として8科目を教養教育に開放しており、異文化間の理解と学びを促進している。英語での国際共修授業は「Environmental Issues」「Media and Japan」を含めて5科目、日本語での授業は「留学生と学ぶ日本」や「三重の社会と文化」等、3科目である。その他、海外のシンポジウムで研究発表と交流を経験する研修や語学留学等のプログラムを提供している。

国際交流センター開講科目一覧（2020年度） CIER Class List

コース名 Course	科目名 Subjects	曜日・限 Days/ Periods	担当教員 Faculties
初級集中基礎Ⅰ Intensive BasicⅠ	総合A/B Total A/B	水 7~8 Wed 7-8	松岡知津子 Matsuoka
	文法A/B Grammar A/B	月 3~6 Mon 3-6	太田 慶子 Oota
初級集中基礎Ⅱ Intensive BasicⅡ	総合A/B Total A/B	水 5~6 Wed 5-6	松岡知津子 Matsuoka
	文法A/B Grammar A/B	木 5~8 Thu 5-8	伊藤 晴苗 Ito
初級集中基礎Ⅲ Intensive BasicⅢ	総合A/B Total A/B	水 1~2 Wed 1-2	福岡 昌子 Fukuoka
	文法A/B Grammar A/B	火 3~6 Tue 3-6	仲渡理恵子 Nakato
中級Ⅰ IntermediateⅠ	文法・読解A/B Grammar and Reading A/B	月 3~4 Mon 3-4	百瀬みのり Momose
	作文A/B Writing A/B	木 3~4 Thu 3-4	松岡知津子 Matsuoka
	聴解A/B Listening A/B	月 7~8 Mon 7-8	太田 慶子 Oota
	会話A/B Conversation A/B	金 1~2 Fri 1-2	大野 陽子 Oono
	文法B（後期のみ） Grammar (Only Fall Semester)	火 7~8 Tue 7-8	伊藤 晴苗 Ito
中級Ⅱ IntermediateⅡ	文法・読解A/B Grammar and Reading A/B	前期：月 5~6 後期：木 1~2	前期：福岡 昌子 後期：松岡知津子
	作文A/B Writing A/B	前期：木 1~2 後期：月 5~6	前期：松岡知津子 後期：福岡 昌子
	聴解・会話A/B Listening and Conversation A/B	水 5~6 Wed 5-6	福岡 昌子 Fukuoka
	文法A（前期のみ） Grammar A (Only Spring Semester)	月 9~10 Mon 9-10	太田 慶子 Oota
	読解A（前期のみ） Reading A (Only Spring Semester)	火 7~8 Tue 7-8	仲渡理恵子 Nakato
	会話B（後期のみ） Conversation B (Only Fall Semester)	火 3~4 Tue 3-4	大野 陽子 Oono
上級 Advanced	上級総合日本語1 A/B Advanced Total Japanese 1 A/B	木 7~8 Thu 7-8	正路 真一 Shoji
	上級総合日本語2 A/B Advanced Total Japanese 2 A/B	月 7~8 Mon 7-8	福岡 昌子 Fukuoka
選択科目 Electives	文字・語彙1 A/B Character and Vocabulary 1 A/B	火 1~2 Tue 1-2	大野 陽子 Oono
	文字・語彙2 A/B Character and Vocabulary 2 A/B	月 1~2 Mon 1-2	百瀬みのり Momose
	中級へのステップ・アップクラスA/B Step-up to Intermediate Class A/B	金 3~4 Fri 3-4	大野 陽子 Oono
	上級へのステップ・アップクラスA/B Step-up to Advanced Class A/B	火 5~6 Tue 5-6	伊藤 晴苗 Ito
	日本事情1 A/B 三重の社会と文化 Japanese Culture and Society 1 A/B	火 9~10 Tue 9-10	正路 真一 Shoji
	日本事情2B（後期のみ）メディアと日本 Japanese Culture and Society 2B (Only Fall Semester)	木 5~6 Thu 5-6	栗田 聡子 Kurita
	日本事情3 A/B 留学生と学ぶ日本 Japanese Culture and Society 3 A/B	水 9~10 Wed 9-10	前期：福岡 昌子 後期：松岡知津子
	日本語教育入門A（前期のみ） Introduction to Teaching Japanese as a Second Language	水3~4 Wed3-4	センター教員他 CIER Faculty

Ⅲ. 国際交流センターの活動

国際キャリアアップ コース（英語） International Career Development Course (Taught in English)	メディアと日本（前期のみ） Media and Japan (Only Spring Semester)	月 9～10 Mon 9-10	栗田 聡子 Kurita
	英語でエッセイ A/B English Short Composition A/B	木 1～2 Thu 1-2	マクダニエル・フロイド McDaniel
	世界遺産と私たち A/B Our World Heritage A/B	金 1～2 Fri 1-2	マホニー・ブライアン Mahoney
	環境問題と地球 A/B Environmental Issues & Our Planet Earth A/B	金 3～4 Fri 3-4	マホニー・ブライアン Mahoney
	三重の社会と文化 A/B The Society and Culture of Mie (English) A/B	火 7～8 Tue 7-8	正路 真一 Shoji
	日本文化紹介 A/B Introduce To Japanese Culture A/B	金 9～10 Fri 9-10	新田 貴士 Nitta

A. 日本語・日本文化教育プログラム

国際交流センターが開講する日本語プログラムを受講するためには、原則として毎学期日本語レベル判定試験を受けなければならない。日本語レベル判定試験は、本学独自の試験問題を作成しオンラインで実施した。

(1) 日本語研修（初級）集中コース

日本語力の速成を希望する、初級レベルの留学生のために設けられたコースである。2020年度は計29名の留学生が受講した。

(2) 一般日本語教育科目

各留学生は、それぞれのニーズと日本語能力に応じて受講することができる。近年では、協定校の短期交換留学生の増加にともない特に中級コースの充実を、また日本で就職を希望する留学生の増加にともない「敬語」「ビジネス日本語」などの上級コースの充実を図っている。

種 別	授 業 名	内 容
初級集中基礎 I, II, III	初級基礎Ⅰ総合	I. 日常生活に最低限必要な初歩的な日本語力を身につける。 II. 初級集中基礎Ⅰ終了後の基本的な日本語能力身につける。 III. 初級集中基礎Ⅱ終了後の基本的な日本語能力を身につける。
	初級基礎Ⅰ文法	
	初級基礎Ⅱ総合	
	初級基礎Ⅱ文法	
	初級基礎Ⅲ総合	
	初級基礎Ⅲ文法	
中級Ⅰ	文法・読解	初級レベルの基礎的な文法理解力、語彙力、会話力、読解力を土台に、留学生が大学で授業を受けるために必要な読解力および聴解力、文章表現力を身につける。
	作文	
	聴解	
	会話	
	文法（後期のみ）	
中級Ⅱ	文法・読解	専門の授業を受けるための、より高度な文法力、読解力、聴解力、文章表現能力、コミュニケーション力等を身につける。
	作文	
	聴解・会話	
	文法（前期のみ）	
	読解（前期のみ）	
	会話（後期のみ）	
上級	上級総合日本語1	専門分野で研究を行うために必要とされる高度な日本語能力を身につける。中級Ⅱのコースを修了した者、または同等の日本語能力を有する者を対象とする。
	上級総合日本語2	

(3) 選択科目：日本語教育・日本文化教育

2002年度以来、個々の学生のニーズに応じて学習の機会を広げることを目的として設けられている。また、「メディアと日本」、「留学生と学ぶ日本」、「三重の社会と文化」は教養教育院へ開放している国際共修授業であり、留学生と日本人学生が議論や発表を通じて日本文化・異文化理解を深め、コミュニケーション能力を高める場を提供している。

種 別	授 業 名	内 容
日本語教育	文字・語彙1	ひらがな、カタカナ、および初級レベルの漢字を学び、また基礎的な語力を身につける。
	文字・語彙2	ひらがな、カタカナ、および初級レベルの漢字を学び、また基礎的な語力を身につける。
	中級へのステップアップクラス	中級レベルの日本語能力習得に必要な文法力、読解力、聴解力、文章表現能力、コミュニケーション力等を身につける。
	上級へのステップアップクラス	上級レベルの日本語能力習得に必要な文法力、読解力、聴解力、文章表現能力、コミュニケーション力等を身につける。
日本文化教育	日本事情Ⅰ：三重の社会と文化	三重県についての基礎的な情報や文化を学び、またフィールドトリップを通じて実地体験する。
	日本事情Ⅱ：メディアと日本(後期のみ)	留学生と日本人学生が「メディア」に関するテーマを通じ、現代の日本の社会や心理傾向について学び、比較により自国に対する理解も深める。
	日本事情Ⅲ：留学生と学ぶ日本	留学生と日本人学生が、日本の社会や文化について共に考え討論する。互いに異文化の視点を尊重し、文化の違いを受入れることを学ぶ。

(4) 市民開放授業

国際交流センターでは、2020年度より開放授業科目を増やし、初級レベルの講義から日本語話者向けの講義まで、前期12科目・後期12科目の計24科目を市民開放授業科目に設定した。しかし、前期については、新型コロナウイルス感染症の影響により受講者の募集を中止とし、後期については応募者がなかったため、受講には至らなかった。

(5) サバイバル日本語講座

「サバイバル日本語講座」が2014年度より開講されている。この講座は、学生だけでなく研究者として来日し日本語の授業を学ぶ時間が無い外国人たち、外国人留学生の家族も対象とし、日本で生活するうえで最低限必要な会話力をつけることを目的としたものである。2020年度は、後期に基礎編・応用編の2講座を開講し、合わせて16名が計5回の授業を毎回熱心にオンラインで受講した。授業では、日本の生活にすぐに役に立つ実践的な練習に取り組んだ。受講生からは、「日本人とコミュニケーションを取ることができるようになった」「日常での買い物をするのにとっても役立った」等、多くの喜びの声が寄せられた。

B. 国際キャリアアッププログラム

「国際キャリアアッププログラム」と総称して、国際交流センターでは(1)英語による授業と(2)海外短期研修プログラムを実施している。三重大学の学生であれば留学生を含めて誰でも受講することができ、将来海外の大学や大学院への長期留学を希望する学生には特に推奨している。

(1) 英語による授業(教養教育開放授業)

授業は留学生だけでなく三重大学の学生は誰でも履修可能であり、教養教育の単位が取得できる。2020年度に実施した科目は以下のとおり。

Ⅲ. 国際交流センターの活動

2020年度国際キャリアアップ開講科目（教養教育院開放授業）

授業名	教養教育	授業の概要・担当教員
Media and Japan メディアと日本 (前期・英語)	日本学	留学生と日本人学生が「メディア」に関する様々なテーマについて考え、議論や発表をすることで、日本文化だけでなく自国の文化についての理解を深める。 教員：栗田 聡子（国際交流センター）
The Society and Culture of Mie 三重の社会と文化 (前後期・英語)	三重学	留学生と日本人学生が三重の自然や歴史、文化や社会について学ぶ。実際に名所旧跡へ訪問することで三重に対する理解が深まり、地域で生活する個人としての意識が高まる。 教員：正路 真一（地域人材教育開発機構）
English Short Composition 英語でエッセイ (前後期・英語)	国際理解特殊講義	Students practice writing short compositions (multi-paragraph) in English. Learning American/English styles and formats of short composition writing. 教員：McDaniel II, Floyd（国際交流センター非常勤講師）
Our World Heritage 世界遺産と私たち (前後期・英語)	国際理解特殊講義	This course introduces, explores and reflect upon the many wonders, both natural and man-made, that exist around our world. 教員：Mahoney, Brian James（国際交流センター非常勤講師）
Environmental Issues & Our Planet Earth 環境問題と地球 (前後期・英語)	環境学A	Students study and evaluate various environmental issues to recognize the impact these pose to life and sustainability. 教員：Mahoney, Brian James（国際交流センター非常勤講師）

(2) 2020年度 海外短期研修プログラム（国際交流センター実施プログラム）

2020年度に国際交流センターが主催で実施した海外短期研修プログラムは以下のとおり。

○Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム オンラインイベント2020

Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウムは、三重大学（日本）、チェンマイ大学（タイ）、江蘇大学（中国）、廣西大学（中国）ポゴール農科大学（インドネシア）の5大学が交代でホスト校をつとめ開催される英語による研究論文発表を中心とした国際交流プログラムで、研究論文のテーマは環境やエネルギー問題を中心としている。1994年以来27回目となる2020年度は廣西大学で開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり、その代替としてチェンマイ大学主催でオンラインイベントが開催された。本学からは工学研究科の学生2名とKeynote Speakerとして金子学長補佐1名が参加し、新型コロナウイルス感染症をテーマに発表を行った。普段とは違う緊張感の中でも、積極的な交流・意見交換ができ、非常に有意義な開催内容であった。

○ベトナム・フィールドスタディ（VFS）

ベトナム・フィールドスタディ（VFS）は2010年に初めて開催された海外短期研修であり、新型コロナ感染拡大の影響から2020年度は初のオンラインで開催し、4名の参加があった。2021年3月8日～3月12日の5日間の日程で行われた。これに先立って、6回の勉強会（プレゼンテーション含む）、およびベトナム人学生によるベトナム語講座を受講し、ベトナム語に関する基礎知識を学んだ。また、オンラインならではの不安や問題点も事前に確認し、準備を行った。

初日に開講式が行われ、ベトナム人学生と一緒に2つのグループに分かれてテーマの決定、調査方法や分担について話し合い、その後は各自が調べたことを議論しながら進めた。お互いの言葉の壁に加えて、通信状況といったオンラインならではの障害もあったが、学生たちは限られた時間の中で工夫しながらコミュニケーションを図り発表内容をまとめていくことで、お互いに学び合う国際共修の場となった。今回は「日越教育の比較」と「日越両国の農業と食事」の最終発表を行い、発表会には両大学から67名の教職員や学生が参加し、質疑応答など活発に行われた。

上記の調査に加え、三重大学生がそれぞれ事前に日本文化のテーマを決めて準備を進め、和菓子、出汁、年中行事、方言について最終日に紹介した。また、お互いにグループを作って日本語とベトナム語について教え合う活動やそれぞれの大学生事情（アルバイト）、お互いの生活空間や食事などの写真等を用いて紹介することで、オンラインであっても確実に交流を深めることができた。



【実施期間】 2021年3月8日～12日（5日間）

【参加者数】 4名（三重大学生）9名（ホーチミン市師範大学生）

【指導教員】 奥田久春（教養教育院）、松岡知津子（地域人材教育開発機構）、吉松隆夫（生物資源学研究所）

3. 三重大学国際交流活動

国際交流センターでは毎年11月から1月に「国際交流Days」と称し、留学生と三重大生が交流する場を提供するなど、学生らが国際感覚を身につけるイベントを企画・実施している。2020年度は「世界とつながる国際交流Days 2020」と題し、10ものイベントを企画した。

2020年度 三重大学国際交流センター主催の主なイベント（オンライン）

開催日時	イベント	主な登壇者	参加者	主な目的	海外からの参加者
7/29 ランチタイム	留学説明会①	留学経験者2名 スペイン・ジャウメプリメル大学 国立高雄師範大学	30名 (本学学生)	留学促進	
7/30 ランチタイム	ドイツday (交流会と留学説明)	ドイツ人留学生8名 留学経験者（工学部院生） ハイデルベルク大学	27名 (本学学生)	留学促進 国際交流	
11/13 ランチタイム	留学説明会②英語圏	留学経験者（人文学部生） タスマニア大学	40名 (本学学生)	留学促進	タスマニア (オーストラリア)
11/20 ランチタイム	Lunch Time New York①	NY国連フォーラム幹事 (津市出身)	39名 (本学学生・教職員)	国際教育 SDGs教育	NY (米国)
11/26 13:00-14:30	タスマニア大学生との交流会①	タスマニア大学生7名	20名 (本学学生)	国際交流	タスマニア (オーストラリア)
12/3 16:30-18:00	国連75周年記念in三重大学	国連広報センター所長	201名 (本学学生・教職員・一般)	国際教育 SDGs教育	ドイツ・NY (米国)
12/8 ランチタイム	Lunch Time New York②	NY国連フォーラム幹事 (津市出身)	36名 (本学学生・教職員)	国際教育 SDGs教育	NY (米国)
12/10 ランチタイム	留学説明会③（台湾・韓国編）	留学経験者2名 梨花女子大学（韓国） 国立高雄大学（台湾）	約30名 (本学学生)	留学促進	
12/14 ランチタイム	トビタテ！第14期募集説明会	留学経験者2名 ノースフロリダ大学（米国） テキサス大学（米国）	27名 (本学学生)	留学促進	
12/15 ランチタイム	Lunch Time New York③	NY国連フォーラム幹事 (津市出身)	22名 (本学学生・教職員)	国際教育 留学促進	NY (米国)
1/22 18:00-19:00	タスマニア大学生との交流会②	タスマニア大学生9名	19名 (本学学生)	国際交流	タスマニア (オーストラリア)
1/27 ランチタイム	韓国メディアと文化	インディアナ大学講師	約70名 (本学学生・教職員)	国際教育	ソウル（韓国）

(1) Lunch Time New York (3回シリーズ)

日 時：11月20日（金）・12月9日（水）・12月16日（水）

参加者：約80名（のべ）（本学の学生・教職員）

三重県津市出身でNY在住の女性経営者、古市裕子氏（NY Marketing Business Action, Inc.代表取締役社長・国連フォーラムNY幹事所属）に3回シリーズでお話を伺った。マスメディアからは知ることが難しいコロナ禍におけるNYの実情、SDGsやBlack Lives Matter運動の中心となっているZ世代、そして古市氏の留学経験について、情熱的に、情報満載で話された。毎回1時間以上延長して参加者からの質問に丁寧に返答していただき、大好評のもと終了した。

Ⅲ. 国際交流センターの活動



(2) 未来を創るのは、私たちが。～Shaping our future together～

日 時：12月3日（木）（Zoom Webinar） 参加者：約200名（本学の学生・教職員 他）



環境先進大学を掲げる本学は、国連が掲げるSDGsを推進していることから、国連創設75周年を記念し、国連広報センターの根本かおる所長を招聘してwebinar講演会を開催した。

参加者は、本学の教職員以外に、SDGsに興味を持つ個人や企業を含め、国内外（アメリカやドイツ）から200名を超える参加者が集まる大規模なイベントとなった。冒頭で、吉松国際担当副学長より「三重大とそのゴール」として、本学が取り組んでいる教育プログラムの概要と特色について紹介があり、続いて根本所長の講演がスタート。若い世代に対して、「地球を一つの家として捉え、受け身ではなく、物事が決定する場面に自分も関わっていく」という姿勢を持ってほしい、と力強いメッセージをいただいた。

(3) 国際交流DAYS 協定校タスマニア大学と三重大生とのオンライン交流会

日 時：1月22日（金） 参加者：28名（本学学生 19名：タスマニア大学生 9名）

タスマニア大学（University of Tasmania:UTAS）は1890年に創立されたオーストラリアで4番目に古い大学で、自然環境学や芸術にも強い大学である。UTASと本学とのつながりは長く、1996年に「授業料不徴収」「単位相互」を前提とした、大学間協定を締結して以来、ほぼ毎年本学から交換留学生を派遣している。このイベントはUTASに交換留学制度を利用して留学した学生（人文学部4年生）とUTASのJapan Societyというサークルが中心となって企画された。国際交流を望む双方の大学の学生にとって、楽しく有意義な機会となった。

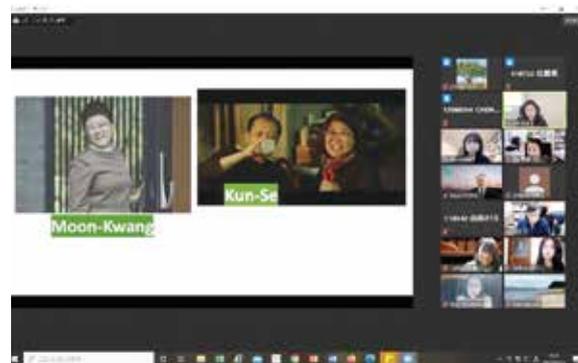


(4) 国際交流DAYS 韓国映画と音楽：映画「パラサイト」からBTSの歌詞まで

日 時：1月27日（水） 参加者：75名（本学の学生・教職員）

情報分野で世界的に有名な米国のインディアナ大学のLuddy Schoolで講師を務めるソウ ヨニ博士によるトークイベントを開催した。韓国は、映画や音楽等のメディアを戦略的に活用してソフト・パワー（自国の価値観や文化によって相手を魅了し、味方につける力）を強めているとのこと。

ソウ博士は、映画「パラサイト」を例に出し、韓国が抱える深刻な経済格差についても言及。参加者から質問やコメントが飛び交う、大変活気に満ちたイベントとなった。時間の都合でお話いただけなかったBTS等、他の興味深いトピックについて第2回目の開催が期待されている。





留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

1. 留学生支援

(1) 在留資格認定証明書代理申請

非正規留学生の在留資格認定証明書交付申請を国際交流チームが代理で行い、留学ビザ取得を支援した。

(2) 留学生ガイダンスの実施

例年新渡日の留学生を対象としたガイダンスを4月と10月に実施しているが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。代わりに対象学生には留学生ガイドブック（日・英）を配布し、三重大学での学生生活を送るための基本的なルール、日本での生活ルールについて個別に指導を行った。

(3) 私費外国人留学生優遇制度 ※新規採用は2018年度をもって終了

本学独自の取組みとして、海外の協定校から本学の修士課程・博士課程に入学する優秀な留学生に対して入学金及び授業料の全額免除を実施している。2020年度は6名の留学生に対して支援を行った。

(4) 私費外国人特待留学制度

本学独自の取組みとして2019年度に新設された。本学の修士課程・博士課程に入学する優秀な留学生に対し入学金及び全学免除を実施しており、2020年度は20名の留学生を特待生として支援した。

(5) 奨学金に関する支援

<三重大学独自の奨学金>

・三重大学国際交流特別奨学生制度

海外協定大学から短期留学する外国人留学生の奨学事業

協定大学からの交換留学生を対象として、月額2万円の奨学金を支給しており、2020年度は5名の留学生を支援した。

・伊藤達雄三重大学名誉教授外国人留学生助成金

本学名誉教授からの寄附金を基に新渡日の優秀な留学生に対し奨学金を支給しており、2020年度は、2名の留学生を支援した。

・梅林正直三重大学名誉教授タイ人留学生助成金

本学名誉教授からの寄附金を基に新渡日の優秀なタイ人留学生に対し奨学金を支給しており、2020年度は、1名の留学生を支援した。

・三重大学「三重県民共済奨学金」

三重県民共済生活協同組合からの寄附金を基に正規課程に在籍する私費留学生を対象として月額5万円を1年間支給しており、2020年度は延べ7名の留学生を奨学生として支援した。

＜各種民間財団等の奨学金＞

各種奨学財団等からの募集に対し、留学生委員会において選考し、国際交流チームにて申請手続きを行っている。2020年度の受給実績は以下のとおり。

奨学金名	受給人数（人）
文部科学省外国人留学生学習奨励費	5
本田弁二郎留学生技術者育成奨学基金	5
ロータリー米山記念奨学会	3
大塚敏美育英奨学財団	1
高山国際教育財団	1
佐藤陽国際奨学財団	1
ジャパンマテリアル国際奨学財団	3
上原記念生命科学財団来日研究生助成金	1

(6) 留学生への就職支援

日本で就職を希望している留学生を対象とした「外国人留学生の就活セミナー2020」を7月、10月、2021年1月の3度、オンライン開催した。それぞれ「就活のスケジュール」、「履歴書の書き方」、「面接の受け方」をテーマとし、延べ参加者数は20人以上となった。



就活セミナー ポスター

(7) 三重地域留学生交流推進会議の開催

三重県内における留学生の円滑な受入の促進と交流活動の推進を図るとともに、地域住民の国際理解の増進に寄与するため発足された会議で、2020年度は9月14日に総会の開催に代えてメールでの資料送付及び意見交換を行い、2月19日（金）にオンラインにて運営委員会を開催した。本会議では、新型コロナウイルス禍における参加各機関の留学生支援の取組状況や、就職支援・インターンシップ等、多岐に渡り活発な情報交換を行った。

(8) 日本人レジデントアシスタント（RA）

留学生寄宿舎のシェアルームには日本人学生がレジデントアシスタント（RA）として入居しており、2020年度は11人が国際交流会館及び留学生寄宿舎に入居する留学生と日々交流しながら、生活面におけるさまざまなサポートを行った。

IV. 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

(9) 留学生会

受入環境や支援体制の改善・留学生と日本人学生の交流促進・イベントの企画立案や運営について検討することを目的に、各国の代表者を選出し、月に一度意見交換を行った。

(10) チューター制度

チューター学生が新渡日の留学生に生活・日本語学習補助等を行う制度のことで、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により原則実施しないこととなったが、研究活動等で活動許可を得ている学生でかつ、指導教員が必要と判断する場合に限り、感染拡大に最大限の配慮をした上での活動は可とし、3名の留学生が本制度を利用した。

(11) 留学生住宅総合補償（機関保証制度）

留学生が民間宿舎へ入居するにあたり、保証人を探す困難さと保証人の精神的・経済的負担を軽減し、円滑な入居を支援する制度である。留学生がこの制度に加入することで、三重大が機関保証人となる。2020年度は22名の加入があった。

2. 海外留学支援

(1) 交換留学生の授業料免除制度

2014年度から「学業成績等優秀学生及び交換留学生の授業料免除制度」を制定し、本学から協定校に交換留学生として派遣される学生について、協定に基づき、派遣先の大学で授業料を納める必要がある場合、本学の授業料を免除することとしている。

(2) 交換留学・トビタテ！留学JAPANに関する説明会

7月から12月には全3回にわたり、交換留学を経験した学生の経験談を中心に、リラックスした雰囲気の中で協定校の紹介や留学についての情報提供と質疑応答を実施した。オンライン開催となったものの、すべての回において30名以上の学生より参加があり、コロナ禍の渡航制限中であっても学生の留学への関心の高さをうかがわせる結果となった。

また12月に留学に興味を持つ全学の学生を対象とした「官民協働留学支援制度「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～説明会」」を実施し、約30名の学生が参加した。

(3) 官民協働留学支援制度「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」第12・13期採択結果

データ：トビタテ！12期・13期

2020年度 前期（第12期）＜全国コース＞

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施できなかった。

No.	申請コース	学部/研究科	課程	学年	受入機関	採択期間
1	理系、複合・融合系人材コース	工学研究科	修士	1	ミュンヘン工科大学 (ドイツ)	2020年10月7日～2020年12月19日
2	理系、複合・融合系人材コース (未来テクノロジー枠)	工学研究科	修士	1	アデレード大学 (オーストラリア)	2021年3月31日～2021年8月31日
3	理系、複合・融合系人材コース	工学研究科	修士	1	カリフォルニア大学バークレー校 (アメリカ)	2020年9月1日～2021年2月28日
4	理系、複合・融合系人材コース	工学研究科	修士	1	カリフォルニア大学バークレー校 (アメリカ)	2020年9月1日～2021年2月28日

2020年度 後期（第13期）＜全国コース＞

新型コロナウイルス感染症の影響により選考中止。

(4) 奨学金に関する支援

①三重大学国際交流特別奨学生制度

- ・外国の大学へ留学する学生への奨学事業

協定大学への交換留学生を対象として15万円を支給している。2020年度は交換留学生の派遣がなかったため実施されなかった。

- ・国際交流事業へ参加する学生への奨学事業

学生が外国で行われる国際交流事業へ参加する場合、10万円を支給している。2020年度は該当する事業がなかったため実施されなかった。

②海外留学支援制度

2020年度日本学生支援機構の海外留学支援制度において、以下のプログラムが採択された。

＜協定派遣＞

渡航制限により実施できなかった。

プログラム名	対象学部	担当教員	採択期間	採択日数	採択人数
看護学生による課題追求型、臨地体験型アクティブラーニング形式の海外研修プログラム	看護学科 研究科看護学専攻	(医) 竹内	2020年5月～ 2021年3月	32～45	4
三重大学ベトナムフィールドスタディ	全学部	(国) 松岡	2020年2月～ 2020年3月	8～10	7
英語による実験実習を通じた学部専門教育への導きと国際ネットワーク形成	生物資源学部 生物資源学研究科	(生) 中島	2020年8月	17	12
東南アジア圏の文化習得に資するタイチェンマイ大学短期留学の試み	工学研究科	(工) 金子	2020年8月～ 2020年10月	30	5
アジア圏異文化の涵養に資するマレーシア短期留学の深化・展開	全学部	(工) 金子	2020年8月～ 2021年3月	21～28	18
三重大学－マレーシア大学間の学生双方向・異文化交流の深化（派遣）	工学研究科	(工) 金子	2020年9月～ 2020年10月	32	5
三重大学看護学生短期相互交流海外研修プログラム	看護学科 研究科看護学専攻	(医) 竹内	2020年5月～ 2021年3月	8	9
地域に根ざしたグローバル・リーダーの育成を目指す教養教育英語特別プログラム	全学部	(教養) 綾野	2020年4月～ 2021年3月	24	46
ニュージーランドの教育改革と学校教育を学ぶ教育研修プログラム	教育学部	(教) 後藤	2020年9月	16	12

＜双方向協定型＞

渡航制限により実施できなかった。

プログラム名	対象学部	担当教員	採択期間	派遣/受入日数	採択人数
ドイツ語/日本語ステップアッププログラム【みえハイム】 Mie-Heidelberg Mutual international student exchange programe	全学部	(国) 松岡	2020年9月～ 2021年9月	5ヵ月～12ヵ月	派遣 4 受入 4

3. 地域の国際化支援

(1) 留学生の地域派遣

三重県内の教育機関等からの依頼を受け、以下のとおり国際交流行事等に延べ15名の留学生を派遣し、地域の学生等と交流を図り、地域の国際化に寄与した。

年月日	依頼元	依頼内容	留学生派遣人数
2020/11/26~2021/2/17	津市役所	職員向け英語研修	5
2020/12/18	津市教育委員会	タガログ語通訳	1
2021/2/20	三重県国際戦略課	2020グローバル環境セミナー（オンライン）	6
2021/3/31	三重県国際戦略課	「みえ国際ウィーク2020」オンライン交流会	3

(2) 2020年11月26日～2021年2月17日：津市役所向け英語研修

津市職員の外国語での窓口対応能力向上を目的に、英語研修が5回にわたって津センターパレスにて開催された。本学から外国人留学生5名が参加。英語でのコミュニケーション実践練習に協力した。最終日には、高田本山専修寺での観光案内研修も実施し、学生たちにとっても貴重な国際交流の場となった。



(3) 2021年2月20日：グローバル環境セミナー

三重県雇用経済部国際戦略課と三重県教育委員会の共催でグローバル環境セミナーが、オンラインで開催された。本学の留学生6名（パプアニューギニア・ソロモン島・ガーナ・中国）が日本人学生2名、県内の高校生らと共に参加した。オセアニア出身の留学生は、母国の環境問題について英語でプレゼンを行い、その後参加者は、活発なグループ討論によって刻々と変化する国際社会情勢等について理解を深めた。



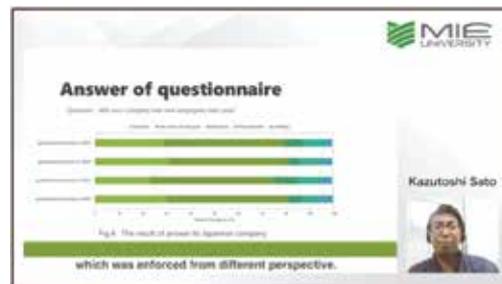
4. 地域人材教育開発機構による国際交流活動

(1) 外国人留学生対象・三重県内インターンシップ

外国人留学生3名が、三重県内の2つの団体でインターンとして就業体験をした（前期1名；後期2名）。内1名は、コロナウィルス感染のリスクを避けるため、対面と在宅勤務を含むハイブリッドインターンシップに参加した。参加した留学生からは、「将来日本で就職したいと考えている自分にとって大変いい経験になった。」などの感想が報告された。

(2) eラーニングツール・英語プレゼンテーション動画

三重大学生の英語力向上のためのeラーニングツールとして、英語でのプレゼンテーション指導動画および三重大学生による英語でのプレゼンテーション動画（ともに英語字幕付き）を制作した。英語プレゼンテーション指導動画は、①プレゼンテーションの構成、②パワーポイントの作成における留意点、③実際に発表する際の準備等について、元三重大学非常勤講師ギボン・ベハナン先生が英語で具体的に説明したものである。また、三重大学生による英語プレゼンテーション動画は、Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム2020で実際に発表されたものを収録した。これらの動画をmoodle3.5の「国際交流センター」→「英語プレゼンテーション動画」にアップロードすることで、今後英語でプレゼンテーションをする機会のある学生たちの教材としていつでも視聴できるよう設定した（三重大学教職員・学生限定）。



(3) 桑田真似Web TALK「海外体験記×TOEIC対策勉強法」

2020年12月15～17日に、元読売ジャイアンツの桑田真澄投手のモノマネ芸人であり、かつTOEIC990点（満点）保持者で英語講師・翻訳家としても活動されている桑田真似氏をお招きし、「桑田真似Web TALK：海外体験記×TOEIC対策勉強法」を開催（録画配信）した。本トークセッションでは、教育学部の学部生6名も収録に参加し、世界50カ国を周遊した体験談やTOEICで高得点を取るための具体的な勉強法などをお話いただいた。参加者からは、「コロナ禍で海外に行くのが難しい状況の中、50カ国を巡った話を聞くことができ面白かった。」「英語の勉強法について大変参考になった。」などの感想が寄せられた。



(4) 林一章オンライン講演会「A Ball is Rolling 何処へでも行ける」

三重県津市出身の元プロサッカー選手（Jリーグ）林一章氏をお招きし、1月12～14日に講演会を開催した（録画配信）。大学時代に単身ブラジルに渡ってサッカー修行をした経験、現在行なっているシリア難民支援活動など、豊富な国際経験から得られた気づきなどについてお話しいただいた。参加者からは、「人生経験やサッカー経験について、リアリティのある話で大変参考になりました。」、「少し頑張っ



て勇気を出せば、それが新しい出会いにつながり自分の成長にもつながるということに改めて気付かされました。」、「これからの日本の若者たちが多様性を認識し、日本の勤勉性の上に積極性を身につけて世界をリードして欲しいと感じました。」などの感想が寄せられた。

(5) 島サミット参加国出身者と地域市民の交流会「島サミット ZOOM TALK」

三重県青年国際交流機構（三重県IYEO）と三重大学地域人材教育開発機構グローバル人材教育開発部門の共催で、「島サミット ZOOM TALK」を開催した（2020年12月から月例開催）。1997年以来3年毎に日本と太平洋島嶼国が参加して行われる島サミット（PALM）について、三重県志摩市で開かれる2021年度サミットに先駆けて行われた本ZOOM TALKでは、島サミット参加国であるパプアニューギニア、ツバル、ソロモン諸島、フィジー出身の三重大学留学生および卒業生による母国についての紹介、そして聴講者との英語での活発な質疑応答が行われた。中高生を含む参加者からは、「海外の方の生の声で聞くと、授業で聞くより現実味が感じられる。」、「それぞれの国と、日本を比較することによって、他の国には無い日本の良さを改めて感じるがありました。例えば、ごみの分別システムなどは他の国ではまだ発展していない国も多くある中で、日本はリサイクルなどのシステムが整っていると思いました。」などの感想が寄せられた。



(6) 外国人留学生対象・乗馬体験

外国人留学生3名（日本語・日本文化研修生）が乗馬クラブクレイン三重を訪れ、乗馬体験をした（3月17日）。青山高原の山間の中、インストラクターの指導を受け、「進み」、「曲がり」、「止まる」といった馬との共同作業を楽しんだ。



(7) 外国人留学生対象・萬古焼陶芸体験

外国人留学生3名（日本語・日本文化研修生）が、三重県の有名な陶芸「萬古焼」の里を訪れ、作陶体験を行なった（3月19日）。インストラクターの指導のもと、「手びねり」という手法を学び、湯呑茶碗やマグカップなどを製作した。作品は後日郵送され、留学生たちは「世界に一つだけの作品」に喜んでいた。



1. 海外大学等との協定締結機関地図



国際交流協定締結機関 International Partner Institutions

Jiangsu University
Jiangnan University
Shanghai Ocean University
Shanghai Jiao Tong University School of Medicine
Xi'an University of Technology
Faculty of Thermal Engineering and Engineering Mechanics, Tsinghua University
College of Science Zhenjiang University

Tianjin Normal University
Institute of Japanese Studies, Nankai University
Nanjing Tech University
Beijing Foreign Studies University
School of Foreign Languages, Beijing Institute of Technology
The Second Medical College of Lanzhou University



◎大学間協定締結機関
25カ国・地域 66大学・機関
University Level: 25 Countries/Areas, 66 Institutions

●学部間協定締結機関
24カ国 49大学・機関
Faculty Level: 24 Countries, 49 Institutions

総協定大学数
36カ国・地域 115大学・機関
Total of 36 Countries/Areas,
115 Institutions

2021年5月1日現在
As of May 1, 2021

2. 学術交流協定大学一覧

(1) 大学間協定：25カ国・地域66大学・機関

2021年4月1日現在

	大学・機関名	国・地域名	協定締結日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書
1	江蘇大学	中国	1986年01月15日	1995年09月29日
2	チェンマイ大学	タイ	1989年08月22日	1996年01月31日
3	タスマニア大学	オーストラリア	1996年04月01日	1996年04月01日
4	バレンシア州立工芸大学	スペイン	1997年07月04日	2003年01月10日
5	廣西大学	中国	1999年02月22日 (1995年04月21日：生物)	1999年02月22日 (1995年12月19日：生物)
6	カセサート大学	タイ	1999年12月23日	2000年07月24日
7	コンケン大学	タイ	2000年07月17日 (1994年08月25日：医学)	2000年07月17日
8	エアランゲン・ニュルンベルク大学	ドイツ	2001年03月16日	2001年03月16日
9	東国大学校	韓国	2002年12月16日	2004年03月24日
10	梨花女子大学校	韓国	2002年12月17日	2004年03月23日
11	西安理工大学	中国	2003年08月28日	2003年08月28日
12	スラナリー工科大学	タイ	2003年10月18日 (2000年09月08日：生物)	2003年10月18日
13	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2004年03月15日	2004年03月15日
14	天津師範大学	中国	2004年11月20日 (2003年03月15日：教育)	2004年11月20日 (2003年03月15日：教育)
15	ノースカロライナ大学ウィルミントン校	米国	2005年12月21日	2005年12月21日
16	江南大学	中国	2006年02月13日 (1998年03月30日：生物)	2006年02月13日 (1998年03月30日：生物)
17	IPB大学	インドネシア	2006年09月24日 (2001年09月24日：生物)	2006年09月24日 (2001年09月24日：生物)
18	スリウィジャヤ大学	インドネシア	2007年11月06日	2007年11月06日
19	タマサート大学	タイ	2008年01月15日 (2004年02月27日：生物)	2008年01月15日 (2004年02月27日：生物)
20	南京工業大学	中国	2008年07月07日	2008年07月07日
21	ハイデルベルク大学	ドイツ		2008年12月12日
22	河南師範大学	中国	2008年12月15日 (2005年10月26日：教育)	2008年12月15日 (2005年10月26日：教育)
23	世宗大学校	韓国	2009年02月10日	2009年02月10日
24	メジョー大学	タイ	2009年03月31日	2009年03月31日
25	外国貿易大学	ベトナム	2009年05月26日	2009年05月26日
26	ホーチミン市師範大学	ベトナム	2009年07月28日	2009年07月28日
27	上海海洋大学	中国	2009年09月24日 (1995年10月16日：生物)	2009年09月24日 (1996年10月24日：生物)
28	タシケント国立法科大学	ウズベキスタン	2010年03月22日	2010年03月22日
29	内蒙古工業大学	中国	2010年03月31日 (2000年03月08日：工学)	2010年03月31日 (2000年11月13日：工学)
30	ハルオレオ大学	インドネシア	2010年07月23日	2010年07月23日
31	* ハワイバシフィック大学	米国	2010年09月13日	

大学・機関名		国・地域名	協定締結日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書
32	シャルジャ大学	アラブ首長国連邦	2010年10月04日 (2008年12月24日：医学)	2010年10月04日 (2008年12月24日：医学)
33	モンゴル国立大学	モンゴル	2010年10月15日	2010年10月15日
34	ハバロフスク国立経済法律大学	ロシア	2010年10月15日	2010年10月15日
35	延辺大学	中国	2010年10月15日	2010年10月15日
36	サボア・モンブラン大学	フランス	2010年11月04日	2010年11月04日
37	ボーフム大学	ドイツ	2011年03月28日	2011年03月28日
38	ジャウメプリメル大学	スペイン	2011年04月14日	2011年04月14日
39	カーディフ大学	英国	2011年07月15日	2011年07月15日
40	安徽農業大学	中国	2011年10月25日 (2008年10月21日：生物)	2011年10月25日 (2008年10月21日：生物)
41	ライプツヒヒ大学	ドイツ		2012年02月07日
42	バジャジャラン大学	インドネシア	2012年02月24日	2012年02月24日
43	タチ大学	マレーシア	2012年05月24日 (2010年08月02日：工学)	2012年05月24日
44	ブトラマレーシア大学	マレーシア	2012年08月08日 (2006年09月19日：生物)	2012年08月08日
45	雲南大学	中国	2012年08月20日	2012年12月25日
46	北京外国語大学	中国	2012年09月21日 (2012年03月23日：人文)	2012年09月17日
47	セントラル・ランカシャー大学	英国	2017年01月31日	2013年04月19日
48	国立高雄師範大学	台湾	2013年06月18日	2013年06月24日
49	国立ラ・モリーナ農業大学	ペルー	2013年08月23日	2013年08月23日
50	カジェタノ・エレディア大学	ペルー	2014年02月11日	2014年02月11日
51	フィジー国立大学	フィジー	2014年05月05日	2014年05月05日
52	南太平洋大学	フィジー	2014年05月06日	2014年05月06日
53	カントー大学	ベトナム	2014年09月12日	2014年09月12日
54	中山大学	台湾	2014年11月04日	2014年11月04日
55	ザンビア大学	ザンビア	2014年11月11日 (2007年02月07日：医学)	2014年11月11日 (2007年02月07日：医学)
56	国立金門大学	台湾	2015年06月23日	2015年06月23日
57	サンパウロ大学	ブラジル	2015年07月07日 (2011年5月16日：人文)	2015年07月07日
58	南台科技大学	台湾	2015年08月28日 (2014年11月14日：イノベ)	2015年08月28日
59	済州大学	韓国	2015年09月14日	2015年09月14日
60	ソフィア大学	ブルガリア	2016年09月19日	2016年09月19日
61	王立ブノンベン大学	カンボジア	2017年01月18日	2017年01月18日
62	国立台湾海洋大学	台湾	2019年01月03日	2019年01月03日
63	サンカルロス大学	フィリピン	2019年08月16日	2019年11月25日
64	中央大学校	韓国	2019年10月14日	2019年10月14日
65	真理大学	台湾	2020年1月14日	2020年1月14日 (2014年10月21日：イノベ)
66	* マレーシアトレンガヌ大学	マレーシア	2020年7月30日 (2017年11月28日：生物)	2020年7月30日 (2017年11月28日：生物)

*印のついている大学は、授業料等を徴収する協定大学

V. 資料

(2) 部局間協定：24カ国・地域 49大学・機関

2021年4月1日現在

部局名	大学・機関名	国・地域名	協定締結日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書
教養教育院	* シェフィールド大学英語教育センター	英国	2015年09月10日	
人文学部 人文社会科学 研究科	シャルル・ド・ゴールリール第3大学	フランス	1989年11月01日	2013年03月15日
	リヨン政治学院（リヨン第2大学）	フランス	2002年01月21日	2002年01月21日
	ルンド大学人文・神学学部	スウェーデン	2016年01月08日	2011年03月18日
	南開大学日本研究院	中国	2010年01月22日	2013年03月18日
教育学部	* オークランド大学教育学部	ニュージーランド	2013年08月14日	
	* 北京理工大学外国語学院	中国	2015年11月16日	
医学系研究科 医学部	* マーサー大学医学部	米国	1998年10月29日	
	* ウェイン州立大学医学部	米国	2002年03月18日	
	上海交通大学医学院	中国	2004年08月11日	2009年12月01日
	* ロストック大学医学部	ドイツ	2004年10月29日	
	廣西医科大学	中国	2006年06月06日	2020年9月1日
	ムヒンビリ健康科学大学医学部	タンザニア	2007年10月19日	2007年10月19日
	イエーテボリ大学健康科学部	スウェーデン	2009年01月14日	2009年01月14日
	ニューメキシコ大学医学部	米国	2009年06月24日	
	ガーナ大学医学部	ガーナ	2010年02月18日	2010年02月18日
	ベルジア大学医学部	イタリア	2010年02月22日	2010年02月22日
	蘭州大学第二臨床医学院	中国	2011年03月17日	2011年03月17日
	ラオス健康科学大学	ラオス	2011年09月26日	2011年09月26日
	アムリタ大学医学部	インド	2012年01月30日	1995年01月30日
	* ヤンゴン第一医科大学	ミャンマー	2012年12月17日	
	フリンダース大学医学部	オーストラリア	2014年02月27日	2014年02月27日
	* フライブルク・カトリック応用科学大学	ドイツ	2014年06月11日	2014年06月11日
	* ワシントン大学医学部	米国	2014年08月25日	
	* マンダレー医科大学	ミャンマー	2014年11月04日	
	フィリピン大学マニラ保健学部	フィリピン	2015年7月23日	2015年7月23日
	* ヤンゴン第二医科大学	ミャンマー	2015年10月22日	
	バンガバンドウシャイクムジブ医科大学 (BSMMU)	バングラデシュ	2015年7月27日	2015年7月27日
	ベルゲン大学医歯学部	ノルウェー	2016年1月21日	
	メッシーナ大学医学部	イタリア	2019年10月23日	2019年10月23日
工学研究科 工学部	清華大学熱能工程系及び工程力学系	中国	1995年10月01日	1995年11月01日
	モンクット王ラカバン工科大学工学部	タイ	2005年09月05日	2005年09月05日
	浙江大学理学部	中国	2009年03月28日	2009年03月28日
	パリ工芸大学	フランス	2009年08月31日	2009年08月31日
	* 財団法人クリーブランドクリニック医用生体工学ラーナー研究所	米国	2011年04月22日	
	国立アテネ工科大学	ギリシャ	2012年05月16日	2012年05月16日
	* バドヴァ大学マネジメント工学部・土木環境建築工学部	イタリア	2014年02月17日	
	ベトナム科学技術院 (VAST) エネルギー科学研究所 (IES)	ベトナム	2014年09月30日	2014年09月30日
	ロイトリンゲン大学工学部	ドイツ	2015年03月05日	2020年4月29日
	ガジャ・マダ大学工学部	インドネシア		2015年07月06日
	ガジャ・マダ大学数学自然科学学部	インドネシア	2019年1月31日	2019年1月31日
	バンドン工科大学数学自然科学学部	インドネシア	2019年2月19日	2019年2月19日
国立成功大学化学工程系	台湾	2019年4月12日	2019年4月12日	
生物資源学研究科 生物資源学部	釜慶国立大学校 水産科学学部・環境海洋学部	韓国	1995年09月22日	2013年02月06日
	モンクット王トンブリ工科大学生物資源学研究科	タイ	2009年10月20日	2009年10月20日
	ゲント大学生物科学工学部	ベルギー	2015年03月09日	2015年03月09日
	パテイン大学大学院農業科学・海洋科学研究所	ミャンマー	2016年12月04日	
	セントラルルソン大学	フィリピン	2018年08月01日	2018年08月01日
地域イノベーション学 研究科	東ワシントン大学	米国	2017年08月03日	

*印のついている大学は、授業料等を徴収する協定大学

3. 2020年度 国籍別・学部別外国人留学生数

(1) 2020年度 国籍別留学生数

	総数	(女子)
30ヶ国・地域	204	(93)

2020年5月1日現在

国・地域名		【学部】		【大学院】		【国際交流センター】	計
		正規生	非正規生	正規生	非正規生	非正規生	
アジア	中国	11 (0)	13 (11)	54 (24)	4 (3)	21 (17)	103 (55)
	韓国	14 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (6)
	ベトナム	9 (2)	1 (0)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (3)
	インドネシア	0 (0)	0 (0)	9 (4)	1 (0)	0 (0)	10 (4)
	マレーシア	3 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (1)
	タイ	0 (0)	2 (1)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	6 (5)
	台湾	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (1)
	バングラデシュ	0 (0)	0 (0)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (2)
	カンボジア	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)
	ラオス	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)
	ミャンマー	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)
	ネパール	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	フィリピン	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
スリランカ	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	
アフリカ	ガーナ	0 (0)	0 (0)	7 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (2)
	エジプト	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)
	ザンビア	0 (0)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
	タンザニア	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)
	ギニア	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	ケニア	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)
	セイシェル	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
中南米	ブラジル	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	メキシコ	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
オセアニア	フィジー	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	バブアニューギニア	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	ソロモン諸島	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	ツバル	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
ヨーロッパ	ドイツ	0 (0)	8 (4)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	10 (5)
	フランス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (0)
	スウェーデン	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)
合計		38 (8)	26 (16)	104 (45)	11 (5)	25 (19)	204 (93)
		64 (24)		115 (50)		25 (19)	

() は、内数で女子を示す。

正規生	非正規生
142 (52)	62 (40)

V. 資料

(2) 学部別留学生数

2020年5月1日現在

	学部		修士		博士		計
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	
人文学部・人文社会科学研究科	16 (4)	22 (13)	14 (6)	4 (3)	0 (0)	0 (0)	56 (26)
教育学部・教育学研究科	3 (1)	1 (1)	6 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (5)
医学部・医学系研究科	0 (0)	0 (0)	3 (2)	1 (1)	25 (11)	0 (0)	29 (14)
工学部・工学研究科	18 (2)	1 (0)	11 (5)	3 (0)	10 (4)	0 (0)	43 (11)
生物資源学部・生物資源学研究科	1 (1)	2 (2)	15 (4)	3 (1)	14 (8)	0 (0)	35 (16)
地域イノベーション学研究科	0 (0)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	6 (2)
国際交流センター	0 (0)	25 (19)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	25 (19)
計	38 (8)	51 (35)	52 (21)	11 (5)	52 (24)	0 (0)	204 (93)

() は、内数で女子を示す。

4. 三重大学生の海外派遣

2020年度の三重大学における海外派遣数は、交換留学による半年～1年の長期派遣の1名のみであった。

(1) 交換留学による派遣

現地への派遣

部 局	国・地域名	大 学 名	人数
人文学部 (1)	オーストラリア	タスマニア大学	1
合 計			1

オンラインによる受講 (入国制限のため)

部 局	国・地域名	大 学 名	人数
人文学部 (1)	中国	北京外国語大学	1
合 計			1

(2) トビタテ！留学JAPANによる派遣

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実施されなかった。

(3) 海外短期派遣プログラム (部局別)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、すべてのプログラムが中止となった。

プログラム名	交流大学・機関・企業等	国・地域名	派遣期間
全学対象プログラム			
第27回国際ジョイントセミナー&シンポジウム	廣西大学	中国	1週間
ブリティッシュ・コロンビア大学夏期語学研修	ブリティッシュ・コロンビア大学	カナダ	4週間
タチ大学夏期英語研修 (8月)	タチ大学	マレーシア	4週間
タチ大学夏期英語研修 (3月)	タチ大学	マレーシア	4週間
サウスカロライナ大学英語研修 (3月)	サウスカロライナ大学	アメリカ	3週間
ベトナム・フィールドスタディ	ホーチミン市師範大学	ベトナム	9日間
済州大学韓国語・韓国文化研修	済州大学	韓国	3週間
教養教育院			
英語特別プログラム短期海外研修	シェフィールド大学	英国	23日間
人文学部			
オックスフォード大学夏期英語研修	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	英国	2週間
短期ドイツ文化研修	ヴァイマル、ライプツィヒ、ベルリン	ドイツ	9日間
短期タイ文化研修	タマサート大学	タイ	2週間
教育学部			
海外教育研修	オークランド大学	ニュージーランド	15日間
短期中国文化研修	北京理工大学	中国	5日間
医学系研究科・医学部			
海外臨床実習	ワシントン大学	アメリカ	4週間
海外臨床実習	シャルジャ大学	アラブ首長国連邦	4週間
海外臨床実習	カーディフ大学	イギリス	4週間
海外臨床実習	ベルジア大学	イタリア	4週間
海外臨床実習	アマリタ大学	インド	4週間
海外臨床実習	ザンビア大学	ザンビア	4週間
海外臨床実習	タマサート大学	タイ	4週間
海外臨床実習	ムヒンビリ健康科学大学	タンザニア	4週間
海外臨床実習	上海交通大学	中国	4週間
海外臨床実習	フィリピン大学	フィリピン	4週間
海外臨床実習	サンパウロ大学	ブラジル	4週間
海外臨床実習	ヤンゴン小児病院	ミャンマー	4週間
早期海外体験実習	ワシントン大学	アメリカ	9日間
早期海外体験実習	アーナンダ病院	インド	13日間
早期海外体験実習	コンケン大学, ラオス健康科学大学	タイ, ラオス	9日間
早期海外体験実習	上海交通大学	中国	2週間
看護学科短期海外研修	チェンマイ大学	タイ	9日間
看護学科短期海外研修	フライブルク応用科学カトリック大学	ドイツ	9日間
工学研究科・工学部			
工学研究科海外短期研修	海外協定校等		1カ月間
海外短期インターンシップ	タイ、フィリピン、ベトナムの日本企業等		10日間
生物資源学研究科・生物資源学部			
サマースクール	マレーシア・トレンガヌ大学	マレーシア	23日間

5. 国際的な学術交流活動・教育活動に関する教職員の研究・教育実績

(2020年4月1日～2021年3月31日)

<教養教育院>

学術論文

1. Evgeniy E. Kozlovskiy, Aleksandr A. Kisleiko, Tomoko Fukuda, Kuniko Kawai, Alexei V. Abramov, Satoshi D. Ohdachi. Records of sika deer *Cervus nippon* from the southern Kuril Islands in 1986-2019, with special reference to a continuous record of living deer on Kunashir Island since 2017. *Mammal Study* 45: 1-5, 2020.
2. Tomoko Fukuda, E.V. Linnik. Morphology and habitat of *Micranthes fusca* (Maxim) S. Akiyama et H. Ohba (Saxifragaceae). Conservation of biodiversity of Kamchatka and coastal waters, materials of XXI international scientific conference 313-319, 2020.
3. Maria A. Polezhaeva, Elena A. Marchuk, Makar V. Modorov, Maryana N. Ranyuk, Svetlana N. Bondarchuk, Tomoko Fukuda, Seung Chul Kim, Cheryl Hojnowski. Insights into the genetic diversity and population structure of *Rhododendron brachycarpum* (Ericaceae) in East Asia as characterized by SSR markers. *Plant Systematics and Evolution* (online, 13pp).
4. 奥田久春, 松岡知津子. 海外研修の知見を生かした国内での国際共修の可能性 – 三重大学ベトナムフィールドスタディを事例に –. *三重大学高等教育研究*, 27, 85-88, 2020
5. Tuladhar A., Kunwar R.M., Bussmann R.W. (2021) *Didymocarpus aromaticus* Wall. ex D. Don Gesneriaceae. In: Kunwar R.M., Sher H., Bussmann R.W. (eds) *Ethnobotany of the Himalayas. Ethnobotany of Mountain Regions*. Springer, Cham. https://doi.org/10.1007/978-3-030-45597-2_81-1

学会発表

1. 福田知子* (三重大・教養), 石川直子 (大市大・植物園), チェルニャギナ O.A. (太平洋地理学研), バルカロフ V. Yu. (極東多様性センター), タラン A.A. (サハリン植園), ヤクーボフ V.V. (極東多様性センター), マルチュク E.A. (ウラジオストク植物園), リンニク E.V. (国後自然保護区) 玉木 一郎 (岐阜森林アカデミー). 極東地域におけるチマイワブキ属 *Rotundifoliatae* 節植物 (ユキノシタ科) の遺伝構造. 第20回日本植物分類学会大会 2021年3月8-10日 (オンライン開催)
2. Okuda, H., Tagataese, T., Gauna, W. A Study of Localization and Globalization of Secondary Education in Samoa. Festival of Oceania Comparative and International Education Society 2020 Virtual Conference (ZOOM), 8th December.
3. Tuladhar A., Khanal D.R., Shrestha U. The present scenario of kiwifruit farming in Illam, Nepal. 3rd Asian Horticulture Congress, International Society of Horticulture Science. 15-17 December 2020, Miracle Grand Convention Hotel, Bangkok, Thailand.
4. Tuladhar A. Equal and quality education during times of the pandemic-Opinion of online class takers. 7th Kanto Branch Conference, The Japan Association for Global Competency Education (JAGCE). 19th September 2020. Online Conference on Zoom.

招待講演

1. Tuladhar A. What are the SDGs? How are we to take action? How was the approach to sustainability before SDGs existed? Comparing culture to understand the diversity in our Society. Guest Lecturer for Mimasaka University Volunteer Center, Okayama, Japan. 11th February 2021. Online Workshop on Zoom.

継続中の「共同研究についての契約」

福田知子 ロシア太平洋地理学研究所カムチャツカ支部 (先方総裁 – 三重大副学長間, 2018年～2021年)

福田知子 ウラジオストク植物園 (先方園長 – 三重大学長間, 2019年10月1日～2024年12月31日)

<人文学部・人文社会科学研究科>

1. 久間泰賢. グプタ朝以降のインド仏教の僧院に関する総合的研究. *考古学ジャーナル* 746:54-56, 2020年

国際オンラインワークショップ

1. Kyuma, Taiken(Introduction) Remains and Memories of Buddhists in Islamizing West Asia July 26, 2020(Online International Workshop)
2. Kyuma, Taiken(Opening Address & Introduction) Monasteries and Doxography in Indian Buddhism September 19-20, 26-27, 2020(Online International Workshop)
3. Kyuma, Taiken(Opening Address & Convenor) Buddhists and Other Religious Communities in Pre-modern Southeast Asia with Special Reference to Monasteries March 7, 2021(Online International Workshop)
4. Kyuma, Taiken(Opening Address) Studies on Buddhist Monastic Cultures: German-Japanese Collaboration March 17 and 24, 2021 (Online International Workshop)

<工学部・工学研究科>

1. Akira Nishimura, Tadaaki Inoue, Yoshito Sakakibara, Masafumi Hirota, Akira Koshio and Eric Hu, Impact of Pd loading on CO₂ reduction performance over Pd/TiO₂ with H₂ and H₂O, molecules 25, DOI:10.3390/molecules25061468, 2020.
2. Akira Nishimura, Satoshi Ohata, Kaito Okukura and Eric Hu, Impact of operation condition on performance of CH₄ dry reforming membrane reactor, Journal of Energy and Power Technology 2(2), DOI:10.21926/jept.2002008, 2020.
3. Akira Nishimura, Hirota Fukuoka, Kohei Yamamoto, Tatsuya Okado, Yuya Kojima, Masafumi Hirota and Mohan Lal Kolhe, Journal of Energy and Power Engineering, 14, DOI:10.17265/1934-8975/2020.01.001, 1-15, 2020.
4. Akira Nishimura, Tatsuya Okado, Yuya Kojima, Masafumi Hirota and Eric Hu, Impact of MPL on temperature distribution in single polymer electrolyte fuel cell with various thickness of polymer electrolyte membrane, Energies 13(10), DOI:10.3390/en13102499, 2020.
5. Akira Nishimura, Kohei Yamamoto, Tatsuya Okado, Yuya Kojima, Masafumi Hirota and Mohan Lal Kolhe, Impact of analysis of MPL and PEM thickness on temperature distribution within PEFC operating at relatively higher temperature, Energy 205, DOI:10.1016/j.energy.2020.117875, 2020.
6. Akira Nishimura, Tadaaki Inoue, Yoshito Sakakibara, Masafumi Hirota, Akira Koshio and Eric Hu, Impact of Pd loading on CO₂ reduction performance over Pd/TiO₂ with H₂ and H₂O, Prime Archives in Molecular Science (e-Book), Edited by Slawomir Lach, Published by Vide Leaf, 1-32, 2020.
7. Li Q, Xu J, Kamada Y, Maeda T, Nishimura S, Wu G, Cai C, Experimental investigations of airfoil surface flow of a horizontal axis wind turbine with LDV measurements, Energy 191, 116558, 2020.
8. Li Q, Kamada Y, Maeda T, Yamada K, Investigation of flow field around two-dimensional simplified models with wind tunnel experiments, Renewable Energy 152, 270-282, 2020.
9. Rei Ito, Yota Oppata, Motoyu Katsumura, Ken'ichi Yano, Yasuyuki Kobayashi and Hermano Igo Krebs, Robotic knee orthosis to prevent falling during a standing up assistance, 2020 IEEE Region 10 Symposium (TENSYP), 5-7 June 2020, Dhaka, Bangladesh.
10. Ziti Fariha Mohd Apandi, Ryojun Ikeura, Soichiro Hayakawa and Shigeyoshi Tsutsumi, Analysis of Pan-Tompkins Algorithm Performance with Noisy ECG Signals, Journal of Physics: Conference Series 1532, 1-11, 2020.
11. Ziti Fariha Mohd Apandi, Ryojun Ikeura, Soichiro Hayakawa and Shigeyoshi Tsutsumi, An Analysis of the Effects of Noisy Electrocardiogram Signal on Heartbeat Detection Performance, Bioengineering 7(53), 1-15, 2020.
12. Ziti Fariha Mohd Apandi, Ryojun Ikeura, Soichiro Hayakawa, Shigeyoshi Tsutsumi, Noise Reduction Method based on Autocorrelation for Threshold-Based Heartbeat Detection, 2020 International Conference on Advanced Mechatronic Systems (ICAMechS), Hanoi, Vietnam, 2020, 83-88.
13. N. Khammayom, C. Chaichana, N. Maruyama and M. Hirota, An Experimental Study of Radiant Cooling for Greenhouse in Thailand, Proc. of Japan Society of Refrigerating and Air Conditioning Annual Conference 2020, Paper No. E134, 6p., 2020.
14. T. S. Wai, C. Chaichana and N. Maruyama, Heat Transfer Characteristics of a Completely Closed Horticulture Room, Proc. of Japan Society of Refrigerating and Air Conditioning Annual Conference 2020, Paper No. E141, 6p., 2020.
15. N. Khammayom, C. Chaichana, N. Maruyama and M. Hirota, A Field Study of Copper Pipe Radiant Cooling for Greenhouse in Tropical Countries, Proc. of the 20th Conference on Energy, Heat and Mass Transfer in Thermal Equipments and Processes, 5p., 2021.
16. T. S. Wai, C. Chaichana and N. Maruyama, Prediction of Heat Load of Air Conditioning for Strawberry Cultivation in Horticultural Closed Room, Proc. of the 20th Conference on Energy, Heat and Mass Transfer in Thermal Equipments and

V. 資料

- Processes, 5p., 2021.
17. Sebastian Tamariz, Gordon Callsen, Johann Stachurski, Kanako Shojiki, Raphaël Butté, and Nicolas Grandjean, Toward bright and pure single photon emitters at 300 K based on GaN quantum dots on silicon, *ACS Photonics* 7, 1515-1522, 2020.
 18. Akira Uedono, Kanako Shojiki, Kenjiro Uesugi, Shigefusa F Chichibu, Shoji Ishibashi, Marcel Dickmann, Werner Egger, Christoph Huguenschmidt, Hideto Miyake, Annealing behaviors of vacancy-type defects in AlN deposited by radio-frequency sputtering and metalorganic vapor phase epitaxy studied using monoenergetic positron beams, *Journal of Applied Physics* 128, 085704-1-10, 2020.
 19. Yukino Iba, Kanako Shojiki, Kenjiro Uesugi, Shiyu Xiao, Hideto Miyake, MOVPE growth of AlN films on nano-patterned sapphire substrates with annealed sputtered AlN, *Journal of Crystal Growth* 532, 125397-1-5 2020.
 20. Bai F, Kakimoto K, Shang X, Mori D, Taminato S, Matsumoto M, Takeda Y, Yamamoto O, Minami H, Izumi H and Imanishi N, Synthesis of NASICON type $\text{Li}_{1.4}\text{Al}_{0.4}\text{Ge}_{0.2}\text{Ti}_{1.4}(\text{PO}_4)_3$ solid electrolyte by rheological phase method, *Journal of Asian Ceramic Societies* 8, 476-483, 2020.
 21. Zhang Y-P, Li Y-Q, Cui Z-H, Wang J-C, Yamamoto O, Imanishi N and Zhang T, A porous framework infiltrating Li-O₂ battery: a low-resistance and high-safety system, *Sustainable Energy & Fuels* 4, 1600-1606, 2020.
 22. Soga S, Bai F, Zhang T, Kakimoto K, Mori D, Taminato S, Takeda Y, Yamamoto O and Imanishi N, Ambient air operation rechargeable lithium-air battery with acetic acid catholyte, *Journal of the Electrochemical Society* 167(9), 090522, 2020.
 23. Kanamori S, Matsumoto M, Taminato S, Mori D, Takeda Y, Hah H-J, Takeuchi T and Imanishi N, Lithium metal deposition/dissolution under uniaxial pressure with high-rigidity layered polyethylene separator, *RSC Advances* 30, 17805-17815, 2020.
 24. Bai F, Kakimoto K, Shang X, Mori D, Taminato S, Matsumoto M, Takeda Y, Yamamoto O, Izumi H, Minami H and Imanishi N, Water-stable high lithium-ion conducting solid electrolyte of $\text{Li}_{1.4}\text{Al}_{0.4}\text{Ge}_{0.2}\text{Ti}_{1.4}(\text{PO}_4)_3\text{-LiCl}$ for aqueous lithium-air batteries, *Frontiers in Energy Research* 8, 187, 2020.
 25. Alejandro Barriga-Rivera, Tianruo Guo, Yuki Hayashida, Gregg J. Suaning, “Editorial: A Conversation With the Brain: Can We Speak Its Language?”, *Frontiers in Neuroscience* 14, article#794 (3 pp.), 2020.
 26. Spin selectivity through time-reversal symmetric helical junctions, Yasuhiro Utsumi, Ora Entin-Wohlman, and Amnon Aharony, *Phys. Rev. B* 102, 035445, 2020.
 27. Comment on “Spin-orbit interaction and spin selectivity for tunneling electron transfer in DNA”, Ora Entin-Wohlman, Amnon Aharony, and Yasuhiro Utsumi, *Phys. Rev. B* 103, 077401, 2021.

<生物資源学研究科・生物資源学部>

1. Pölme S et al. Fungal Traits: a user-friendly traits database of fungi and fungus-like stramenopiles. *Fungal Diversity* 105:1-16, 2020.
2. Matsuda Y et al. Communities of mycorrhizal fungi in different trophic types of Asiatic *Pyrola japonica* sensu lato (Ericaceae). *Journal of Plant Research* 133: 841-853, 2020.
3. Hattori Y, Motohashi K, Tanaka K, Nakashima C. Taxonomical re-examination of the genus *Phyllosticta*—Parasitic fungi on Cupressaceae trees in Japan. *Forest Pathology* 50:, 2020.
4. Braun U., Nakashima C, Bakhshi M, Zare R, Shin HD, Alves RF, Sposito MB. Taxonomy and phylogeny of cercosporoid ascomycetes on *Diospyros* spp. with special emphasis on *Pseudocercospora* spp. *Fungal Systematics and Evolution* 6: 95-127, 2020.
5. Nishikawa J, Nakashima C. Japanese species of *Alternaria* and their species boundaries based on host range. *Fungal Systematics and Evolution* 5: 197-281, 2020.
6. Siti Hanggita Rachmawati, Hossain Z, Shia J. Shear strength of soil by using clam shell waste as recycle aggregate. *Journal of Agricultural Engineering* 51: 155-160, 2020.
7. Nonaka A. Failed Market-Oriented Society and Working Co-ops’ Biodiesel-Based Food System After The Great East Japan Earthquake. Rajasekhar D, Manjula R, Paranjothi T. ed, *Cooperatives and Social Innovation*, Springer, pp97-91, 2020.

国際貢献活動

1. 大洋州地域の14カ国・太平洋島嶼国リーダー教育支援プログラム・2015年～現在・大洋州諸国の行政官等を選抜して本邦に招聘し、本邦大学の修士課程などでの教育に加え、本邦の省庁や地方自治体等において実務研修の機会を提供するもの。2020年度は2名が在籍している。

2. アフリカ大陸54カ国・ABEイニシアティブ修士課程及びインターンシッププログラム・2015年～現在・アフリカにおける産業開発に資する日本とアフリカ各国間の人脈を形成し、日本企業がアフリカにおいて経済活動を進める際の水先案内人となる高度産業人材の育成を目指す。2020年度は3名が在籍している。

<国際交流センター>

学術論文

1. Shoji, Shinichi. (2020). English speaker acquisition of topic and subject in multiple clause sentences in Japanese. *Studia Orientalia Electronica*, 8(1): 63-84.
2. 正路真一・守山紗弥加・和気尚美・山本裕子 (2021) 「国内外の大学の科目ナンバリング・システムについての考察」『高等教育研究』第27号 pp.1-9.

実践報告

1. 正路真一・福岡昌子・松岡知津子 (2021) 「企業が外国人留学生に求めるもの：外国人留学生インターン受入企業・団体へのアンケート調査から」『三重大学国際交流センター紀要』第16号.
2. 正路真一・福岡昌子・松岡知津子 (2021) 「インターンシップによる外国人留学生の日本での就職に対する意欲の変化について：終了後のアンケート調査から」『三重大学国際交流センター紀要』第16号.
3. 正路真一 (2021) 「米国大学の学生を対象とした英語での三重地域文化発信：国際交流センター・共用教育科目「三重学」におけるVirtual Exchangeの取組み」『三重大学国際交流センター紀要』第16号.
4. 正路真一 (2021) 「外国人留学生による三重地域文化発信：国際交流センター科目「日本事情I」におけるVirtual Exchangeの取組み」『三重大学国際交流センター紀要』第16号.
5. 正路真一 (2021) 「COIL (Collaborative Online International Learning) による交流活動と日本語学習意欲の喚起」『JALT 日本語教育研究部会ニュースレター』第18号.
6. 「日本語教育を軸とした相互交流促進のための外国人教員短期招聘事業」福岡昌子 (2021) 『三重大学国際交流センター紀要』(留学生センター紀要より通算第23号), 91-103.

学会発表

1. 正路真一・福岡昌子・松岡知津子 (2021) 「企業が外国人留学生に求めるもの：外国人留学生インターン受入企業・団体へのアンケート調査から」South Eastern Association of Teachers of Japanese (ノースカロライナ州立大学), 2021年2月27日.

6. 歴代国際交流センター長 一覧

	国際交流センター長
2005年度	亀岡孝治
2006年度	亀岡孝治
2007年度	小林英雄
2008年度	小林英雄
2009年度	松岡守
2010年度	松岡守
2011年度	朴恵淑
2012年度	朴恵淑
2013年度	堀浩樹
2014年度	堀浩樹
2015年度	堀浩樹
2016年度	堀浩樹
2017年度	堀浩樹
2018年度	堀浩樹
2019年度	吉松隆夫
2020年度	吉松隆夫
2021年度	金子聡



●三重大学国際交流ホームページ
(<http://www.mie-u.ac.jp/international/>)

発行/令和3(2021)年10月
国立大学法人 三重大学
問合わせ先/国際交流チーム
〒514-8507 津市栗真町屋町 1577
TEL 059-231-9924
FAX 059-231-5692
E-mail koryu@ab.mie-u.ac.jp
ホームページ <http://www.mie-u.ac.jp/international/>
印刷/伊藤印刷株式会社

